

之通被告罪人保証之義願出候處右者聽置不苦哉異例ノ
義ニ付一應相伺候

別紙

今般保釋條例御頒布相成候ニ付テハ別紙之通廣告書
(脱)ヲ以一般ノ依頼ヲ諾シ私共保証人ト相成兼テ開設
罷在候第四大區一小區兵庫町員外七番邸切惣舍法律
研窮所ニ寄宿セシメ連累ハ區域ヲ爲シ取締向ハ勿論
御規則ノ通遵奉致サセ何時モ御喚出ニ應シ召連出頭
可仕候且日曜日ヲ以テ説教師ヲ雇ヒ勸懲之道ヲ解説
爲仕候條此段御聞置可被下候様奉願候也

(指令)十年六月九日 刑事保釋ノ保証人ナル者ハ被告人保釋ヲ
得ル時ニ臨ミ裁判官ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム可キ筋ニ

シテ平素定メ置可キ者ニ無之ニ付松本茂外五人願出
ノ趣ハ難聞届儀ト可心得事

(第三百九十八)秤量偽造之儀ニ付同(二十年五月二十六日)

水戸裁判所

詐偽律偽造斛斗秤尺條斛斗秤尺ヲ偽造スル者ハ流一等
トアリ右秤ヲ偽造スル者トハ權衡標星懸紐皿等全形偽
造スル者ヲ指シ若シ標星懸紐ノミヲ變換スル者ハ明治
六年第二百七十九號公布單行條例ニ依リ處斷スヘキハ
勿論ニ有之候處特々權又ハ衡又ハ皿ノミヲ偽造スル者
ハ明文律無之候間右單行條例ニ照シ處斷シ可然候哉

(指令)十年六月九日 同之通

(第三百九十九)刑事表進達方之儀ニ付同(十年五月廿六日)

十年六月

函館裁判所

本年丁第三十七號ヲ以テ刑事諸表竝兩取調書之儀先般
檢事章程御改正ニ付テハ自今直ニ本省へ可差出旨御達
有之右者地方裁判所詰檢事檢事派出無之地方ハ檢ヨリ
本屬上等裁判所檢事ヲ經ズシテ直ニ本省へ進達イタシ
候儀ト相心得可然哉否至急仰御指揮候也

〔指令〕十年六月九日 伺之趣刑事諸表兩取調書之儀ハ總テ檢事
ヲ不經直チニ其應ヨリ可差出儀ト可相心得候事

〔第四百〕賭博現行犯ノ儀ニ付伺二十年五月二十六日

長崎裁判所

賭博ハ現行犯ニ非サレハ其罪ヲ問ハサルハ言ヲ待スト
雖モ爰ニ甲乙丙ノ三名賭博ヲ爲ス者アリ警吏之ヲ偵知

シ就テ縛セントスルノ際甲乙逃走其行ク處ヲ知ラス丙
獨リ縛ニ就ク併シ甲ナル者ハ警吏兼テ其住所氏名ヲ確
認シ得タリ乙ハ丙ノ供出ニ依リ其住所氏名ヲ知り得タ
リ如斯者ハ甲乙共現場ニ於テ捕縛シ得サレハ總テ後日
探索追捕ニ及ハサル乎或ハ甲ハ警吏ノ兼テ氏名等確認
スル所アルヲ以テ時日經過スト雖モ捕獲スレハ其罪ヲ
問フ乎疑議ヲ生シ候ニ付至急御指揮ヲ仰候也

〔指令〕十年六月九日 伺ノ趣捕獲ノ際一時逃走スルト雖モ現行
犯ト同シク其罪ヲ問フ可シ

福島裁判所

〔第四百一〕保釋中數次擅出ノ儀ニ付伺十年五月廿九日

明治十年第十七號御布告保釋條例第七條ニ保釋ヲ得ル
十年六月

ノ被告人云々事故ナクシテ擅ニ他出スルヲ許サスト
 之レアリ然ルニ該條例中其擅出スル者ノ罰例之レ無ク
 依テ曩ニ當裁判所ヨリ其處分方云々相伺候處無届ニテ
 擅出スル者ハ違式ニ問フ儀ト心得可シト御指令〔第六號第十
 三百二〕之レ有リ是ニ於テヤ尙又其擅出ノ罪ハ本罪ノ輕
 重ニ拘ハラス二罪俱發ノ例ニ依ラス各別ニ處斷ス可キ
 ヤ云々相伺候處二罪俱發ノ例ニ依ル可シト御指令〔第八
 號第三百〕之レ有リ若シ果シテ御指令ノ如クハ則其本
 罪懲役二十日以上ノ犯者ノ如キハ其保釋中假令數次ノ
 擅出ヲ爲スモ別ニ擅出ノ罪ヲ科スル無ク又其本罪ニ於
 テモ加フル無シ其レ然リ然ルニ其保釋ヲ得ルノ被告人
 ハ輕キハ懲役一十日ヨリ重キハ懲役終身ニ至リ其違式

罪ヨリ輕キ者ハ實ニ僅々數罪ニ過キサレノミ然リ而シ
 テ今前顛ノ如ク二罪俱發ヲ以テ論スルキハ則其本罪違
 式以上ノ犯者ニ於テハ其擅出幾數次ニ涉ルト雖モ更ニ
 懲戒ノ效驗アルヲ見サルカ如シ右ハ如何相心得可然哉
 (指令)十年六月九日 伺ノ趣前指令ノ通心得可シ最モ擅出シテ
 呼出等ニ障碍アル者ハ裁判官ニ於テ保釋ヲ許サ、ル
 ヲ得ルニ付擅出數次ニ至ルノ弊ハナカル可シ
 (第四百二)贖罪收贖等ノ者上告期限内決行ヲ止ムル儀並
 ニ上告狀書記ノ儀ニ付伺)十年五月十八日
 以下六月十三日指令

神奈川縣

第一條 客歲十月御省指令錄第一號滋賀縣伺第二條中
 贖罪收贖並ニ懲役限内老疾收贖ニ處スル者云々へ兩項

共上告期限内ハ決行ヲ止ムト御指令有之右ニ照據セハ贖罪或ハ收贖等ノ者上告期限内三日間過去リシ後無力ニシテ贖フ一能ハス實斷ニ處セラル、キモ仍ホ上告期限内決行ヲ止ムルハ獄ニ拘置スル併セテ六日間ニ至レリ亦懲役限内老疾收贖ニ處セラル、者ノ如キハ曩ニ刑名宣告ノ際上告限内三日間ヲ拘置シ該犯異存ナキヲ以テ既ニ服役ス然ルニ役限内老疾シ收贖スルモ又タ三日間ヲ止ムルハ法ノ因テ然ラシムル處ト存候得共老疾收贖ノ如キハ即時決放ヲ要ス儀ト被相考候ニ付右止ムト止メサルトハ該犯ノ情願ニ任セ可然哉

第二條 爰ニ懲役十年ニ處セラレシ犯人有之然ルニ役限内祖父母父母老疾シテ家ニ侍養ノ子孫ナク存留養親

條例ニ依テ棒鎖三日ノ上餘罪收贖シ即時決スヘキ者等前條御指令ニ準照スルキハ尙三日間ヲ止メサルヲ得ス然ルキハ一日モ缺ヘカラサル養親侍養等自ツカラ遷延ニ至ルモ情實憫然ノ至ト被相考候ニ付是又前記ノ如ク該犯ノ情願ニ任セ可然哉

第三條 爰ニ懲役ニ處セラレシ犯人三日間拘置中既ニ上告ヲナサント欲スルモ犯人自ツカラ上告狀ヲ書記スル一能ハス代理人ヲ獄中ニ延キ之ニ代書セシムルモ右代理人トスル知人無之旨ヲ以テ之ヲ官ニ請求スルキハ官ヨリ代書人ヲ撰ミ上告趣意明細書ヲ書記ナサシムヘキ哉果シテ然ラハ右代證人ニ關ス費用等ハ該犯貧窶ニシテ自辨スル能ハサレハ之ヲ官費ニテ仕拂可申哉

〔指令〕十年六月

第一條第二條

老疾及ヒ留養者ト雖モ

上告期限三日間ハ決行ヲ止メサル可ラス尤贖罪收購

ヲ聽ルスヘキ者ハ責付スルヲ本法トスルニ依リ決行

ヲ止ムル間ト雖モ固ヨリ拘置スルニ及ハス

第三條 犯人自ラ書記スルヲ能ハス且無力ニシテ費

用ヲ償フ能ハサル者ハ獄吏ヲシテ代書セシム可シ

〔第四百三〕盜賊ニ係ル遺失物還付ノ儀ニ付伺〔二十年五月

京都裁判所

本年一月廿四日付ヲ以テ盜賊ニ係ル遺失物處分方ニ付

費用辨償ノ義ニ付疑義伺出候處伺ノ通但盜犯捕ニ就カ

ス法衙ニ於テ估計等ノ手數ヲ要セサルキハ警察官ヨリ

直ニ還付スル義ト心得ヘシト御指令〔第二百六號〕之アリ

右估計等ノ手數ヲ要セサル云々トハ其遺失ノモノ文書

等ニ係リ賊ニ計ヘサルモノハ警察官ヨリ直ニ還付シ其

物品等ノ賊ニ入ルモノハ法衙ニ於テ估計ノ上下付スル

儀ニ候哉將々盜犯捕ニ就カサル場合ニ於テハ物品ノ賊

ニ入ルモノト雖モ估計スルニ及ハス直ニ警察官之ヲ還

付シ追テ賊捕獲ノ節ニ至リ其物品所在ヲ失スルキハ法

官空評價ヲ以テ罪ヲ定メ處斷可然儀ニ候哉

〔指令〕十年六月 伺ノ趣盜犯捕ニ就カサレハ警察官ニ於

テ贓品ノ品位摸樣等ヲ詳記シ置キ贓品ハ直ニ還付ス

可シ他日捕獲ノ時其物品所在ヲ失スレハ裁判所ニ於

テハ右ノ品位書ニ依リ估計シテ罪ヲ定ムル儀ト可心

得事

十年六月

〔第四百四〕子孫父祖ノ妾ヲ毆ツ者ノ儀ニ付伺 十年六月六日

仙臺裁判所

茲ニ子孫嫡出ノ子父祖ノ妾ヲ毆ツ者アリ國律等親圖中ニ照スモ子孫父祖ノ妾ニ於ケル其等親ナシ改定律例第二百六十一條父祖ノ妾伯叔姑姉妹及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者各懲役三年トアリ右伯叔父姑子ノ婦ハ二等親ニ位スルヲ以テ其權衡ニ依リ二等親ノ尊長ヲ毆ツヲ以テ論セシ乎將々凡人ヲ毆ツヲ以テ論ス可キ乎
〔指令〕十年六月六日 凡人ヲ毆ツヲ以テ論ス可シ

印行所 東京 博聞社

六月十四日 指令

司法省指令錄刑事部第三十三號

〔第四百五〕華士族自首シテ贓徴ス可カラサル者ノ儀ニ付

伺 十年四月十八日

東京裁判所

華士族破廉耻甚ノ罪ヲ犯シ自首シテ贓徴ス可ラサル者處斷ノ法ハ律例第六十七條ニ依リ其罪ヲ免シ候方至當ナル歟又ハ同第六十八條ニ比準シ減等セスシテ閏刑ニ處シ候テ可然哉

〔指令〕十年六月十四日 例第六十八條ニ依リ減等セスシテ閏刑ニ處スル儀ト心得可シ

〔第四百六〕刑期起算ノ儀ニ付伺 十年五月十三日 大阪府
處刑言渡濟三日間獄内別舎ニ拘置上告セサル者懲役年日數計算ノ儀改定律例第四條ニ依リ刑名宣告ノ日ヨリ

計算可致様正院ヨリ御朱書相成候趣ヲ以一昨八年御省
 日誌第七十六號各裁判所各縣へ御達有之ニ付實決スル
 者モ宣告後留置日數答杖ノ數ヲ減スルノ有無昨九年三
 月第五百八十九號ヲ以相伺候處實決スル者ト雖モ懲役
 日數計算ノ例ニ照シ答杖ノ數ヲ減スヘキ旨御指令(日誌
 第三十九號)相成然處本年三月御省御指令錄刑事部第二十
 四號大審院伺控訴上告手續第二十八條ニ刑ノ言渡ヲ受
 ケタル者上告ヲ爲サント欲スル時ハ其言渡ヨリ第三日
 迄トアリ右第三日迄トハ刑ヲ言渡シタル日ヨリ起算ス
 ヘキヤ又ハ刑ヲ言渡シタル翌日ヨリ起算スヘキヤノ御
 指令ニ刑ヲ宣告シタル翌日ヨリ起算スヘキ旨可心得ト
 有之就テハ懲役年日數計算ハ宣告ノ日ヨリ數へ上告留

置日數ハ宣告ノ翌日ヨリ數フレハ一日喰違三日ノ留置
 ヲ懲役日數四日ト數へ實決スル者ニ至テハ刑名宣告ノ
 日ヨリ四日留置上告ナサ、ル者ハ翌五日目決行取計右
 留置四日ノ日數答杖ノ數ヲ減シ候テ可然哉

(指令) 十年六月 伺ノ通

(第四百七) 刑事表兩取調書類松本裁判所ヨリ受取ノ儀届
 十年六月 長野縣

刑事兩取調書其他三表調製事務今般松本裁判所ヨリ引
 渡相成候ニ付受取候條爾后刑事三表并兩取調書ハ當縣
 於テ調製差出申候此段及御届候也

(指令) 十年六月 別紙之通松本裁判所へ及指令候條製表
 書類早々該所へ可差返候事(別紙第三十二號第
 三百九十四參看)

以下六月十
五日指令

四
第四百八(盜犯私和ノ儀ニ付再伺)二十年五月

長崎裁判所

本年四月十八日附ヲ以テ盜犯私和ノ儀相伺候中盜犯首服スト雖ヒ其減免ヲ與フルハ官ノ處分ニシテ人民相互ニ爲スヲ得可カラサルヲ以テ首服私和ノ事主盜難ヲ届ケ前ニ係ルモ其私和ノ罪ヲ科セサルハ權衡如何ト疑ヲ生シ御指揮ヲ仰キ候處盜犯事主ノ處ニ於テ首服スル者ハ官司ニ自首スルト同ク減免スルニ付事主其首服スルヲ私和スルニ届ケ以前ニ係ルハ其罪ヲ問ハスト御指令(第三百二十九號第)有之右ノ旨趣ヲ熟考スルニ首服盜犯ハ捕得盜犯ノ本罪ヲ全科ス可キ者ト情狀大ニ異ナルニ付之ヲ私和スルハ例第三百三十八條ニ擬ス可ラサルヲ以

テ其罪ヲ問ハサル儀ニ可有之然ルニ御指令又曰届ケ以上ハ官ニ於テ夫々手當中ニ付更ニ届ケ出サレハ其手數ヲ解クナシ因テ私和ノ罪ヲ科スル儀ト可心得ト右ノ旨趣ヲ以テ前項ト通觀スルニ更ニ申告セサルヲ以テ其罪ヲ科スル儀ニ候ハ、右罪ハ私和ヲ届ケ出サルノ罪名ニシテ私和ノ罪名ニ非ル様被相考候ニ付右犯ノ者ハ私和律ニ依テ判決セス直ニ例第二百八十八條ニ擬定スル方穩當ナラシカ若シ私和律ニ依テ決定スル儀ニ候ハ、届前後ヲ區分シテ罪ノ科不科ヲ異ニスル儀何分了解ニ至ラス此段再應相伺候也

(指令)十五年六月 同ノ趣先般届ケ以上ハ私和ノ罪ヲ科ス
ト指令ニ及ヒ候處一体ニ私和ノ罪ヲ問ハス止タ盜難

五

ヲ官ニ告ルノ後盜犯首服スルヲ私和シテ再ヒ官ニ告ケサレハ違式ニ科スト改正致シ候事

〔第四百九〕一寺住職ノ僧侶獨斷ヲ以テ該寺ノ樹木ヲ賣リ寺用及ヒ私用ニ充ル者處分方伺二十年五月二十六日

熊谷裁判所

一寺住職ノ僧侶獨斷ヲ以テ該寺所有地該僧ノ私及ヒ寄附地等ニ生立スル樹木ヲ斫伐沽却シ該金ノ央ヲ以テ己ニ堂宇ノ修繕費ニ充テ尙ホ餘金ヲ私用ニ供スル者アリ素ヨリ盜心無キハ寺職ノ僧侶其什物ヲ賣却シテ私用スル者ト同一費用受寄財產律ニ依リ又寺用ニ充ツルハ違令輕キニ問ヒ處分シ可然哉尤和歌山縣伺ヲ閱スルニ明治九年司法省日誌第七號第二葉見合云々盜ムノ意ナク故ラニ伐採スルナ

レハ棄毀器物稼穡律ニ依ルト御指令有之然ルニ該犯ノ如キハ他ノ障碍トナル樹木ヲ擅伐シ又遊戯ノ所爲ニ非ス其什物ト稼穡トハ自ラ差異ナリト雖モ寺院ノ所有地及ヒ寄附地ニ於ル到底該僧侶ノ受領ニ係ルヲ以テ其樹木ヲ擅伐賣却シテ寺用又ハ私用ニ供スルモ盜意無キ者ハ前顯費用受寄財產律及ヒ違令輕キニ依リ處分シ穩當ト相考候得共疑議アリ決兼候間此段相伺候

〔指令〕十年六月十五日 伺ノ趣堂宇ノ修繕費ニ充ツルハ不應爲ニ問ヒ私用ニ供スルハ費用受寄財產律ニ依リ二罪俱發以重論律ニ依リ處分スル儀ト心得可シ

〔第四百十〕檢印ヲ受ケス舊製ノ物指ヲ賣ル者處分方伺十年五月二十八日 山形縣

度量衡三器改定ノ儀明治九歲月二第拾七號ヲ以テ御布告
相成タル處尺杖等一時便用ノタメ目盛致シタルモノニ
無之舊製ノ物指尺竹製ニテ尺及ヒ二檢査檢印ヲ不受分賣
買スル者アリ右ハ御規則中正條無之上ハ其罪ヲ問ニ不
及モノト心得可然哉

〔指令〕十年六月十五日

伺ノ趣官許ヲ得スシテ賣捌ク者ナレハ

第三條ニ觸ル、ヲ以テ違令又ハ違式ニ問フ義ト可心得事

〔第四百十一〕證券印紙調印之儀ニ付伺〕十年六月二日

東京裁判所

爰ニ證書渡主其貼用スル印紙ニ實印ヲ捺セス更ニ請人
ニ於テ我實印ヲ以テ該印紙ニ調印スル者アリ右ハ渡主

ノ受人ニ付即チ渡主ノ調印ト見做シ罪ニ問ハサル方ト
存候得共明治八年本省日誌第十六號和歌山縣伺御指令
ノ旨有之聊疑義ヲ生シ此段相伺候也

〔指令〕十年六月十五日

調印ノ規則ニ違フ者ニ付證券印稅規則

第四則第八條第九條ニ依テ處斷スル儀ト心得可シ

〔第四百十二〕瘋癲人祖父母父母ヲ殺ス者及ヒ懲役終身ノ
囚人再逃以上ノ者處分方伺〕十年六月六日仙臺裁判所

第一條 改定律例第百九十四條瘋癲人祖父母父母ヲ殺
ス者ハ鎖錮終身トアリ抑鎖錮ハ刑名ニアラサルカ如ク
然リ依テ地方裁判所限リ處分イタシ可然哉

第二條 本年第二十五號公布改正懲役人逃條例凡懲役
終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ棒鎖十日トアリ假

令再三再四ノ逃走ニ至ルモ同シク棒頭十日ニ止ルカ

(指令)十五年六月 兩條共同ノ通

以下六月十日
六日指令

(第四百十三)贓物ノ情ヲ知リ舊債ノ抵償ニ受ケ或ハ借用

スル者并ニ禁刀令ニ付太政官御指揮ノ儀及ヒ存留

養親ノ儀又ハ債主ノ督責ヲ寛フセシメテ圖リ放火ス

ル者及ヒ警察官ノ詰問ニ依テ數罪ヲ供出スル者等

ノ儀ニ付伺(九年九月二十五日) 京都裁判所

第一條 七年十一月十七日附ヲ以テ詐欺ノ贓タルヲ知

テ舊債ノ抵償ニ受ケシモノ處分方伺出候處坐贓ヲ以テ

論シ贖ヲ聽スト御指令(日誌八年第一)之アリ然ルニ本年司

法省日誌第五十六號飾磨縣ヨリ強竊盜等ノ贓タルヲ知

テ借用セシモノ、伺御指揮ニ情ヲ知テ寄藏スルモノヲ

以テ論ストアリ右ハ其強竊盜等眞犯ノ贓タルヲ知テ借

用スルモノ己ニ寄藏ヲ以テ論スルキハ其詐欺罪等犯數

ニ計ヘサル贓ヲ抵償ニ受ルハ律例第五百五十八條ニ依リ

坐贓ニ二等ヲ減シ處分セサレハ權衡不妥ヲ生シ候様考

候ヘトモ右ハ其借用ト抵償ニ受ルトノ違アルニ依リ仍

ホ各御指揮ニ從ヒ可申哉

第二條 同日誌第六十一號司法省へ正院ヨリ本年第三

十八號御布告違犯ノモノハ其刀ヲ沒收スルニ止ムト御

指揮相見ヘ右ハ其三十八號ノ公布ニ限リ候儀ニ候哉將

タ戊辰三月二十八日御布告提燈又ハ陶器其外賣物等ニ

御紋ヲ畫キ候如キモノ又三十八號御布告ニ準シ其物品

ヲ沒收スルニ止メ別段違令ノ罪ヲ問ハスシテ可然哉

第三條 爰ニ甲乙丙三人ノ兄弟アルニ其甲乙ハ遠國ニ出稼シ丙獨リ郷里ニ在テ老親ヲ養フニ該家酷ク貧シ故ニ甲乙月々丙ニ金ヲ贈リ親ノ衣糧ノ資ニ充ツルト雖モ其金誠ニ瑣々其親ノ食料一半ヲ補フニ足ラサル處丙罪ヲ犯セリスノ如キ者其甲乙ハ出稼ニ係ルト雖モ仍ホ外ニ侍養ナキト云ヲ以テ論シ丙ニ留養ヲ聽シ可然哉

第四條 爰ニ藝ニ僧侶ニシテ當今平民籍ニ編入セシ者巨多ノ金子ヲ借入レ夫レヲ以テ新タニ商店ヲ開キ營業スルニ素ヨリ不慣ノ身柄忽チ損失ニ及ヒシヨリ債主其貸金ヲ嚴責ス爰ニ於テ該人思ヘラク若自己ノ宅舎ニ火ヲ放チ一家焼亡ニ至ラシメハ債主其不幸ヲ憐ミ督責ヲ寬フス可シト既ニ放ツニ及ヒ亦思ヘラク若自宅ニ放チ

焼失一舎ニ止マラハ怪シマレ終ニハ露顯ニ及フ可シ幸ヒ隣家本舎ニ連續スル處ノ便所我家宇ニ接スルヲ以テ右便所ニ火ヲ放タハ我舎忽チ延焼ニ及フ可ク若然レハ債主眞實延焼ニ逢ヒヌト思ヒ是ヲ憐ミ亦其放火ノ事跡モ顯出セサル可シトテ簾ノ中ニ藁ヲ捲込ミ火ヲ點シテ其便所ノ屋上ニ投付スルニ即時隣家ノ家眷其火ヲ見認メ直チニ來テ之ヲ消留ム故ニ止タ其投付セシノミニテ未タ火氣ノ他ニ移ルニ及ハス之ヲ斷スル放火律民舎ニ放火シ燒燬ニ至ラサル者ニ依レハ酷苛ニ過ル云フヲ俟タス如何處置可致哉

第五條 推問ニ依テ餘罪ヲ云フ者自首ヲ以テ論スル旨當應及ヒ諸廳へ御指揮ノ通ニ候處今爰ニ警察吏巡查ノ

砌貧窶ナル者路傍ニイミ居ルニ依リ其住所ヲ訊問スル
 處答判然ナラス故ニ屯所ニ連レ行キ再ヒ之ヲ問フニ某
 ノ里民ナリト雖モ貧困ノ餘リ家ヲ離レ所々徘徊シ己ニ
 數年ノ星霜ヲ重ネシ旨答フルヲ以テ豫テノ行跡ヲ質シ
 亦曾テ惡事ヲモ行ヒタル可シト詰問スルニ依リ該人恐
 怖ノ心ヲ生シ曾テ甲ノ里ニ於テ田野ノ菜菔ヲ盜ミ又ハ
 乙ノ郷ニ於テ他人ノ物品ヲ盜ミ或ハ誰レ某ト鬪毆ニ及
 ヒシト供出ス斯ノ如キノ犯其逃亡罪ハ見問ノ罪ト同シ
 シ律ニ依リ處分シ其盜罪等ハ餘罪ヲ云フ者ト爲シ自首
 ヲ以テ論シ可然哉將タ全罪ヲ論シ二罪俱發ノ例ニ從フ
 可キ哉

(指令)十六年六月 第一條 兩同共盜賊タルヲ知ルト雖モ

借用ト抵償ニ受ルトノ差違アルニ依リ兩指令權衡不

妥ヲ生スル義ナシ

第二條 太政官ヨリ當省ヘノ御指令ハ昨明治九年第

三十八號公布ノ處分ニ限ル義ナリ

第三條 出稼ノ甲乙歸養スヘキニ付丙ニ留養スルヲ
 ヲ聽サス

第四條 放火本律ニ照シ處分ス可シ

但酌減ハ裁判官ノ見込ニ任ス

第五條 該件ノ如キ詰問ニ依テ供出スル者ハ自首ヲ
 以テ論スル限ニアラスニ罪俱發ノ例ニ照シ處分スル
 義ト可心得事

(第四百十四)閏刑禁獄者存留養親ノ儀ニ付再伺)十年五月
 五日

客月十七日附ヲ以テ士族閏刑ヲ犯スニ即今獄舎ノ設ケ
 ナキノ地方ニ於テ私宅内ニ禁獄スル者ノ儀ニ付云々相
 同候處同二十八日附ヲ以テ御指令(第二百四十八號第)有之右
 趣旨熟考仕候ニ御指令第一節同ノ趣例第三十七條ニ依リ侍
 養ヲ聽スト有之候ハ則改定律例第三十七號凡華士族禁
 錮一年以上ヲ犯シ祖父母父母老疾シテ家ニ侍養ノ子孫
 ナキ者ハ侍養スル事ヲ聽シ己ムヲ得サルノ事故アリト
 雖モ官ニ告ルニ非レハ外出スル事ヲ聽サスト云フノ全
 文ヲ履行セラル、者ノ如ク被存候處又第二節尤役過スル
 日數ヲ除キ餘ル日數ヲ收贖セシムル儀ト心得ヘシト有
 之ハ全ク例第三十七條ニ倚ラス一種特別ノ法令ヲ設ケ

ラレタル者ノ如ク相考ヘラレ結局律意ノ基ク處ヲ伺ヒ
 奉リ兼候得共強テ之レヲ會得仕ラントスルニ禁錮ヲ禁
 獄ト御改正相成候ニ付テハ獄舎ニ於テスルモ私宅ニ於
 テスルモ一般ニ侍養ヲ聽ルス夫レハ例第三十七條ニ侍
 養ヲ聽スト云フノ明文アルニ依ルモノナリ然カシ同條
 ニ己ムヲ得サルノ事故アリト雖モ官ニ告ルニ非レハ外
 出スル事ヲ聽サスト云フノ制令ハ廢止ニテ其餘ル日數
 ヲ收贖ニ換ヘラル、モノナリ固ヨリ收贖サル、上ハ平
 民ニシテ侍養ヲ聽ルサル、者ト同一般ナリト云フノ御
 趣意ト相心得可然哉然ルニ又御指令ニ但書禁錮ヲ禁獄
 ト改ムル迄ニ付禁錮ノ條例ハ存在シ候事ト有之ヲ見レ
 ハ前顯第三十七條ノ末文モ全ク存在セル者ニ相當リ一

體罪科ヲ收購セラル、上ニシテ官許ヲ得サレハ外出スル事ヲ得サル等ノ束縛アル可キ道理有之マシク何分前後矛盾不都合ノ儀ト存セラレ且又禁錮ヲ禁獄ト改ムル迄ト云フノ御指令ニ依テ考フレハ全ク錮獄ノ名目相替ル迄ニテ實際ノ取扱ニ於テハ依然タルモノ、如ク相聞ヘ若シ然ラハ當今獄舎ニ於テスル者ト雖モ祖父母父母死亡スレハ例第十九條ニ依リ出獄葬式ヲ行フ事ヲモ聽サレ候哉該條ノ儀ニ付テハ明治九年本省日誌第四十五號磐井縣伺ヘ禁獄者ハ出獄葬式ヲ行フ事ヲ聽ルサスト御指令相見ヘ居リ旁渙然了解仕リ難ク再應相伺候

(指令) 十六日 伺ノ趣禁獄者侍養ヲ聽ス可キ者ハ直ニ放還シ第三十七條ニ依リ處分スル儀ト心得可シ

但先般指令餘ル日數ヲ收購セシムルノ儀ハ取消候事

以下六月十八日指令

(第四百十五) 閏刑失出入改貼ノ儀并ニ未タ戸籍登記セサル繼父母子女ヲ棄ル者居喪嫁娶スル者又ハ拾圓以下ノ私擅用財物追給及其子弟處分方又ハ鳥獸獵犯則者出訴等ノ儀ニ付伺(二十年五月) 福島裁判所

第一條 華士族閏刑ヲ犯シ禁獄ス可キヲ誤テ除族ニ處スルモノハ單ニ族祿ヲ復スルノミニテ更ニ禁獄ニ處スルニ不及儀ト存居候處明治九年本省日誌第六十號ヲ閱スルニ飾磨縣伺第二條御指令ニ禁獄ヲ誤テ除族ニ處スル者ハ族祿ヲ復シテ更ニ禁獄ニ處ス可シト相見ヘ右ハ即今トテモ遵據シ可然哉果シテ然ラハ除族ス可キヲ誤

テ禁獄ニ處スルモノモ更ニ除族シテ殘日數ヲ服役セシムル儀ニ可有之歟然リト雖モ是ハコレ失出ノ權衡ニ依リ貼斷スル事ヲ得サル儀ト相心得可然哉

第二條 例第一百十二條凡子女ヲ棄ル者ハ父母養父母ヲ分タス并ニ懲役百日繼父母ハ一等ヲ加フトアリ然ルニ明治八年第二百九號公布ヲ以テ見レハ其養子女又ハ繼父母トナルモノ、類モ固ヨリ戶籍ニ登記セサル内ハ并ニ凡人ヲ以テ論スヘキモノニ付本例ノ犯罪之レアルトハ如何處分シ可然哉

第三條 華士族ニシテ居喪犯姦罪ヲ犯スハ固ヨリ破廉耻甚ヲ以テ論ス可シト雖モ匿父母夫喪條第二項喪ニ居テ嫁娶スル者ハ各杖一百トアルハ破廉耻ヲ以テ治スル

ニ不及哉

第四條 子弟私擅ニ父兄ノ財物ヲ用フル者其財一十圓ニ滿タサルハ勿論ニ置クノ法タリト雖モ其財物典舖其他ニ現在スレハ法ニ照シ追シテ其父兄ニ給付セサルヲ得サル可シ果シテ然ラハ其子弟資力ノ有無ニ依リ他人ヲシテ多少ノ損失ヲ負ハシムルモノ其責子弟ニ歸セサルヲ得ス仍テ例第六條ニ依リ呵責ニ處シ可然哉

第五條 明治七年十一月 第一百二十二號ヲ以テ公布相成候鳥獸獵規則第二章第十三條銃獵セシ者ノタメ其管廳ヘ出訴スルキハ右出訴ニ属スル入費其不理ナリト裁判ヲ受クル者ヨリ出サシムル事一般ノ規則通りタル可シトアリ右ハ同則第十八條ノ通り犯則人ヲ訴出ル者ノ類

モ賞譽ノ外該入費ヲ追給ス可キ儀ニ可有之哉且一般規則ノ通リタル可シトハ民事訴訟入費ノ法ニ準據スル儀ト相心得可然哉

但本條ハ御改正後既ニ御廢止相成候得共御改正以前ノ犯罪ハ仍ホ本條ニ依リ處分ス可キ儀ト存候

(指令) 十年六月第一條 禁獄ヲ誤テ除族スル者處分ハ舊飾磨縣へ指令ノ通其餘族ヲ誤テ禁獄ニスル者處分ハ伺ノ通

第二條 明治八年第貳百九號ノ公布アリト雖モ親族近鄰モ繼父母ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ戸籍ニ登記セサルモ繼父母ヲ以テ論スル儀ト心得可シ

第三條 伺ノ通

第四條 盜贓ノ物品ト異ナルニ付追徴法ニ依ル可カラス又呵責スルニ及ハス

第五條 本條但書共同ノ通

(第四百十六)地券狀詐爲之儀ニ付伺 二十年五月二十四日

水戸裁判所

明治九年本省日誌第九號京都裁判所伺地券狀ヲ詐爲スル者御指令曰私ノ文書ヲ詐爲スルヲ以テ論スト之レアリ是レ地券狀タルヤ府縣印アリ地方長官ノ印アリト雖モ必竟人民ノ所有ニ歸スルニヨリ私ノ文書ヲ以テ論スル所以ニ可有之果シテ然ラハ夫ノ質入書入借用金證券ノ如キ人民互双ノ契約上ヨリ成立スル者ニシテ固ヨリ

私權上ノモノタル論ヲ俟タス然ルニ其證券戶長與書偽造スルモノハ縣ノ餘ノ文書ヲ詐爲スルヲ以テ論スト明治七年嶋根縣伺御指令(日誌七年第百七)ニ相見ヘタリ均シク人民私有ノ同權物ニシテ一ハ私文書一ハ公文書ヲ以テ論スルハ何ノ點ヨリ如斯權衡ノ差異ヲ生スル儀ニ候哉

(指令)十年六月十八日 地券狀ヲ詐爲スルハ府縣ノ文書ヲ以テ論ス可シ

但京都裁判所ノ指令ハ取消候事

(第四百十七)罪囚証人ノ儀ニ付伺(二十年五月二十八日)

神戸裁判所

明治九年第六十三號公布罪囚ノ証人ト指稱シタル内ニ

ハ無論被害人モ亦含蓄致シ候儀ト相心得罷在候右ニテ可然哉

(指令)十年六月十八日 伺ノ趣証據ノ爲メ呼出ス者ハ何人ヲ論セス証人ト可心得事

(第四百十八)赦典ヲ乞儀ニ付伺(十年六月十一日) 東京裁判所
長野縣信濃國伊奈郡下村
出生無籍神奈川縣武藏國
久良岐郡吉田福富町二丁目
目仁兵衛店長次郎方寄留
平民

役場逃走後再犯ノ科ニ依リ 井澤總吉
懲役九年ト二百七十五日宣告
右ノ者同監囚山口藤右衛門監内ニ於テ縊死セントスル

ヲ見認メ直チニ救助シ死ニ至ラシメサル廉ヲ以テ減等ノ儀警視本署ヨリ具申有之候條右ハ特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ被減度此段相伺候也

(指令)十年六月十八日 伺ノ通

六月廿二日 指令

(第四百十九)上書建白新聞紙へ掲載之儀伺(十年六月九日)

大阪府

新聞條例第十六條院省使廳之許可ヲ不經シテ上書建白ヲ載スルヲ得ス云々有之候處右ハ上書建白中二三之文字ヲ添削更正シ或ハ壹二ノ圈點ニ變シ候節ハ全文掲載ト見做サス諸官廳之許可ヲ不經モ不苦候哉且上書建白官廳へ不差出以前草稿相洩掲載候分ハ同様不苦儀ニ可有之哉差懸候義モ有之候付此段相伺候也

(指令)十年六月二十二日

伺ノ趣上書建白ハ諸官廳ノ許可ヲ得サ

レハ警文字ヲ更正シ及ヒ艸稿タリトモ掲載相成サル儀ト心得ヘシ

琉球藩人

印行所 東京 博聞社

六月廿三日
指令

司法省指令録刑事部第三十四號
〔第四百二十〕琉球藩人身分ノ儀ニ付伺

在琉球
内務省出張所

第一條 先般琉球藩人身分ノ儀王子ハ華族ノ家属ヲ以テ取扱筑登之以上ハ士族ニ準スヘキ旨其筋ヨリ御達有之候處最初御省御伺文中訟庭上取扱トノニ有之候得共右ハ一般ノ法律ニ相涉リ候儀ト心得可然哉

第二條 該藩是迄武士平民ノ分界判然相立居候ニ付犯罪ノ者有之節ハ右武士ト稱スル者ニ限リ未タ筑登之ニ不相成ト雖モ無論士族ヲ以テ處分ニ及ヒ可然哉

第三條 平民ヨリ筑登之以上ニ相成候者其身戸主ナレハ家属一同士族ニ準シ可申若シ戸主ニ無之時ハ此例ヲ

一
十年六月

用ヒサル等改定律例第二十四條第二十五條ニ依リ候義ト相心得可然哉

第四條 地頭代。夫地頭。大屋子。大掟。掟。耕作當。下知人。等民治ニ關スル里正ノ如キ者數種其他砂糖燒出檢見人。蘇鐵植付方。學校教師以下夫々役付候者有之右ハ官給民給ニ拘ハラズ私罪ヲ犯シ候節ハ戶長同様等外吏ニ準シ或ハ月給等外四等ニ及ハサル者贖罪金ハ戶籍ニ依リ處分スル等一般ノ御定律ニ依リ可然哉

〔指令〕二十年六月 第一條第二條第三條 伺ノ通

第四條 地頭代夫地頭大屋子等内地ノ區戶長ニ當ルヘキ者ヲ除クノ外都テ其本籍ヲ以テ處分スヘシ

〔第四百廿一〕代理人免許前ノ犯罪發覺ノ儀ニ付伺 十年六月六日

仙臺裁判所

爰ニ免許代言人ニシテ其免許ヲ受ケサル以前詞訟ヲ教唆シタルノ罪代言人規則頒布ノ後ニ發覺スルモノアリ右教唆ノ犯ハ其罪ノ輕重ニ從ヒ律ニ依テ處斷スルハ論ヲ俟タス罰目ニ至テハ規則頒布前ニ係ル所犯ト雖モ仍ホ罰目中停業除名等ヲ科シ可然哉

〔指令〕二十年六月 詞訟ヲ教唆スルノ罪ハ律ニ照シテ處斷スト雖モ罰目ヲ併セ科スルヲ得ス

但詞訟ヲ教唆スルノ罪規則第三條第一項ニ該ル時ハ免許狀ヲ取上ク可シ

〔第四百廿二〕發狂人陷井ヲ救護セシ者特典ノ儀伺 十年六月六日

兵 庫 縣

十年六月

京都府下々京
第十一大區小島町
木田巳之助

右ノ者本年三月廿九日賭博三犯等ノ科ニ依リ懲役一年
半ニ被處現今懲役場ニ罷在候處本月一日同囚懲役二年
半松本熊吉ナル者工業場へ出ントセシ途中俄ニ發狂致
シ柵内井戸端へ駈行鐵網井戸蓋ヲ取外シ既ニ半身井中
ニ落入シ時幸ヒ井戸端ニ居合セ直ニ取押候ヨリ遂ニ身
投ヲ果サス右ノ如キ九死一生ノ者ヲ救護候段殊勝ノ儀
ニテ外囚ノ獎勵トモ可相成者ニ付特典ヲ以減等相成候
様致度此段相伺候

〔指令〕十年六月 木田巳之助儀特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ
減ス
二十年六月三日

〔第四百廿三〕犯數ヲ包藏シ加等罪ヲ免ル、者ノ儀ニ付伺

十年六月 福島裁判所
十二日

再犯加等罪例ニ凡竊盜及ヒ賭博ヲ犯シ己ニ官司ノ斷決
ヲ經テ再ヒ犯ス者ハ並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フトア
リ右ハ竊盜ハ勿論賭博ト雖モ其犯數ヲ包藏シテ加等罪
ヲ免カル、者ハ其免カル、日數假令ハ再犯ノ初犯ヲ
四犯ノ再犯ト偽リ懲役二百七十五日ノ類ヲ通算シテ更
ニ服役セシムヘキハ論ヲ竣タサルノ儀ト存候處明治九
年本省日誌第二號小田縣伺御指令ノ趣モ有之候ニ付疑
義難決相伺候

〔指令〕十年六月 伺ノ通
〔第四百廿四〕器物毀壞ノ末鬪毆成傷私和ノ儀ニ付伺
二十年六月

刑法裁判上鬪毆傷ヲ成スルハ鞠問ニ係ラサル前私和己ニ成ルハ後發覺スルモ不問ニ置キ其他百般ノ犯罪ニ於ル有夫姦ヲ除クノ外私和ヲ聽サ、ル儀ト相心得居候得共爰ニ他人ノ器物ヲ毀壞シ其末鬪毆ヲ釀シ傷ヲナシ私和己ニ成リ後發覺スル者有リ今此罪ヲ斷スルニ鬪毆ハ不問ニ置キ獨器物毀壞ノ罪ヲ科スルハ權衡允當ナラサルニ似タリ其鬪毆ハ自首モ免サ、ルノ犯罪ニシテ之レヲ私和スルハ不問ニ置ク上ハ器物毀壞スルモ鞠問前之レヲ賠償シ私和己ニ成ルハ後發覺スルモ不問ニ置キ穩當ト相考候得共疑議アリ決シ兼候間此段奉伺候也

〔指令〕十年六月二十三日 伺ノ通

六月廿五日 指令

〔第四百廿五〕強盜人ヲ傷シ自首スル者處分ノ儀 伺 十年六月廿一日

日

大 審 院

持兇器強盜人ヲ傷シ財ヲ得シ者アリ追悔自首シテ賊徵ス可キヲ以テ改定律例第六十三條ニ照スニ強盜財ヲ得シ罪ハ首免ヲ與フ可シト雖モ事主ヲ傷セシ罪ハ首免ヲ與フルヲ得サルニ付謀殺條第二項ニ照シ傷シテ死セサル造意者ナルヲ以テ絞ニ處セサルヲ得ス然ルニ該犯ノ如キ若シ自首セサレハ持兇器強盜人ヲ傷スル者ニシテ懲役終身ニ止ル可キニ其自首セシヲ以テ翻テ死ニ入ルハ權衡平ヲ得ス依テ別紙〔略〕ノ通上申ニ及ヒ候次第ニ有之候處右ノ如キ者即今法律ノ正條ニ依リ候得ハ固ヨリ死ニ入ル可キ者ニシテ且其情狀ニ於テモ毫モ酌量輕

減ス可キ所ナキヲ以テ絞ニ處セサルヲ得ス然レモ前件
同一ノ犯者ニシテ自首セサル者ニ比較致シ候得ハ其罪
ヲ異ニセスシテ其刑ニ至テハ一ハ以テ死ニ入一ハ以テ
生ヲ得ル此ノ如ク罪人ニ於テ幸不幸有之候ハ畢竟法律
ノ不權衡ヨリ生シ候義ニ付右等ノ如キハ追テ其權衡ヲ
得候様律條御改正有之候迄裁判官ノ見込ヲ以テ適宜酌
量他ノ律條ト權衡ヲ得候様處分致シ候テ不苦候哉
(指令)十年六月 伺ノ趣強盜人ヲ傷スル者初ヨリ命ヲ圖
ルノ意ニ出ルヲ明白ナレハ自首スルト否トニ論ナク
固ヨリ謀殺條ノ重キニ依テ論スル義ト可心得事

以下六月廿九日指令

(第四百廿六)日誌八年第廿一號丁 京都裁判所伺指令左ノ

通改正二十年六月二十九日

衣服等ノ預リ證書ハ印稅規則中第一類部ノ荷物預リ
證書ニ比準シ屏風障子等ノ借用證書ハ第二類部ノ借
用證書ニ比準スヘシ

(第四百廿七)服役勉勵他囚ヲ薰陶スル者特典伺)十年六月十八日

茨城縣

明治六年八月十三日宣告 舊水戸藩士 福田律三

三十三年十一月

常陸國筑波郡高須賀村 平民

明治五年四月三日宣告 倉持菊二

三十九年

同國多賀郡諏訪村 平民政之允後家

明治四年八月二日宣告
一懲役十年 鬪毆律毆祖父母父母條

四十二年六月

ユキ

右ノ者共入監以來先非悔悟能ク獄則ヲ守リ驅役筋勉勵候ノミナラス衆囚ヲ鼓舞シカメテ善事ニ入ラシメ候ヨリ懊悔ノ意ヲ發シ本性ニ立戻候者不勘全ク前書三名ノ者共ノ誘導スル所ニシテ向後他囚ノ獎勵ニモ相成候ニ付減等方該掛主任ノ者ヨリ別紙之略ノ通申出事實相違モ無之相聞候間特別ノ御詮議ヲ以テ減等相成候様仕度此段相伺候也

〔指令〕十年六月廿九日 伺ノ趣福田律三外貳人特典ヲ以テ各本

罪ニ一等ヲ減ス

但各犯へ申渡セシ上ハ該裁判所へ可届置事

〔第四百廿八〕不持兇器強盜人ヲ殺傷スル者首從ヲ分ツ儀

ニ付伺 十年六月廿一日

大 審 院

改定律例第二百二十七條凡強盜兇器ヲ持セス威力ヲ以テ人ヲ劫シ財ヲ得サル者ハ皆懲役二年財ヲ得ル者ハ賊ヲ分タスト雖モ賊ヲ併セ首從ヲ分タス罪ヲ科ス人ヲ殺ス者ハ皆斬人ヲ傷スル者ハ皆絞其殺傷ニ與ラサル者ハ止タ盜罪ヲ科ストアリ然ルニ明治十年三月二日第貳拾五號布告改正強盜律凡強盜兇器ヲ持セス人ヲ殺傷スル者ハ皆斬絞ニ處スル律ヲ改メ殺ス者ハ斬傷スル者ハ懲役終身トアリテ皆ノ字ナシ左スレハ名例律共犯罪分首從條凡共ニ罪ヲ犯ス者ハ造意一人ヲ以テ首トナシ隨從者ハ從ト爲シ一等ヲ減ス又同條末項若シ本條内ニ皆ト言

フ者ハ首從ヲ分タス一体ニ之ヲ坐シ皆ト言ハサル者ハ首從ノ法ニ依ルトアルニ照シ無論首從ヲ分ツヘキ儀ト相心得候得共爲念此段相伺候也

〔指令〕十年六月廿九日 伺ノ通

以下六月三十日指令

〔第四百廿九〕工役ヲ勉勵シ他囚ヲ薰陶スル等ノ者特典伺
和歌山縣

明治五年三月二日宣告

當縣下第七大區二小區
田邊湊村平民

懲役十年

萩原傳八郎

明治七年二月廿四日宣告

同第七大區十一小區
新宮平民

懲役十年

西條嘉年造

明治八年二月十五日宣告

同第一大區二小區
北大工町平民

懲役十年

平野長藏

右ノ者處刑以降頗ル謹恪ノ實況佗囚ニ卓越致候ニ付非常ノ特典相仰度云々當縣監獄主任警部ヨリ別紙〔之略〕ノ通具狀相成候ニ付尙實際行蹟ノ現況如何ノ儀周悉取調候處右三名ノ者共處刑入場後各職役ニ服セシメ候ニ其勉勵佗ノ囚徒ニ卓絶致シ百事ニ謹慎從事シ心志ヲ工藝ニ盡シ嘗テ其犯罪ノ非ヲ深ク悔歎シ愈改過遷善ノ色言行ニ相顯レ數年間使役ノ久シキモ更ニ其本質ヲ不變殆ト一日ノ如ク其遷善ノ較著ナル事實相違モ無之且又懲役終身園井大勇外二名ノ者竊カニ逃亡ヲ謀ルノ機密ヲ未萌ニ視察シ其之レヲ訴ルヤ未タ行蹟ノ判然ニ不至ト雖モ尙一層看守ヲ嚴密ニ致置候處果シテ彼カ内訴ノ如ク數日ヲ不出シテ獄舍ヲ破毀スルモ終ニ不良ノ蓄念ヲ逞

十年六月

フスルヲ得サラシム蓋シ彼カ密訴ノ實効ニ出ル者ナ
リ則是平素謹恪ノ證徴ニシテ其心志最殊勝ニ相聞候右
ハ固ヨリ法律ノ大典ニ相關候儀ニシテ容易ニ具狀致候
儀ニハ無之候ヘヒ自然其行蹟ノ實況ヲ以御寬優ノ御處
分相成候ヘハ他囚ノ勸懲獎勵ニモ相成其影響ノ効力モ
不尠候間非常ノ御特典ヲ以罪各一等ヲ被減候様御詮議
相成度此段上申候也

〔指令〕十年六月 伺ノ趣萩原傳八郎外貳人特典ヲ以テ各
本罪ニ一等ヲ減ス

但各犯ヘ申渡ノ上ハ其旨該裁判所ヘ届置シ可シ

〔第四百三十〕薩賊亂入ニ付役囚一時解放ノ日數役限内筭
入ノ儀伺 十年六月 熊本縣

本年二月當縣下薩賊亂入ニ付テハ懲役囚一時解放ノ儀
ハ客月二十九日付ヲ以テ御届ケ及置候通ニ有之候處右
解放中日數ノ儀ハ根元官不得止ニ出テ彼等自ラ作爲ス
ルモノニ無之然ルヲ欠役ニ立テ限内ニ算入セステハ實
以テ憫然至極ニ有之候間右解放中ノ欠役ハ全ク限内ニ
算入候様特別ヲ以テ御聞濟相成候様致度此段相伺候也

〔指令〕十年六月 伺ノ通

〔第四百三十一〕懲役人危難ヲ侵シ賊徒ヲ殺害セシニ付特
典伺 十年六月 茨城縣

明治五年十一月廿七日宣告
一懲役七年 賊盜律強盜條

鹿島郡塚原村
無籍 石塚藤三郎
四十五年二月

十年六月

明治四年十二月廿五日宣告
一同十年 賊盜律強盜條

茨城郡常磐村
元卒

稻葉彌兵衛

三十三年十一月

明治六年一月廿七日宣告
一同七年 賊盜律強盜條

行方郡潮來村
平民

關口新介

二十八年十一月

明治六年五月十七日宣告
一同十年 賊盜律強盜條

久慈郡小目村
平民

照山常之介

三十二年七月

明治七年七月十日宣告
一同十年 賊盜律強盜條

行方郡岡田村平民德次郎兄
源八事當時脱籍

富永徳太郎

二十八年二月

明治九年九月八日宣告

葛飾郡山王村
平民

一同終身 雜犯律放火條

鈴木半藏

三十三年四月

右ノ者共儀客年十二月管下那珂郡上小瀬村外數ヶ村ノ
人民暴動既ニ縣應ヲ襲ハントスルノ急變ヲ聞キ危難ヲ
犯シ寸効ヲ立テ前罪ヲ贖度旨情願ニ任セ舊權令中山信
安專斷ヲ以賊中へ放遣候處果シテ賊徒大町小左衛門ヲ
殺害シ之カ爲メ大ニ賊勢挫折實効不尠候然ルニ罪囚ヲ
放遣候ハ素ヨリ權限ニ觸レ不相濟儀ニ付同人儀先般其
筋へ進退相伺候趣ニ候得共縣治事務受渡ノ際何等ノ演
舌無之此節ニ至リ漸シ引繼有之候ニ付篤ト審案候處右
石塚藤三郎外五名ノ者共畢竟平素悔悟ノ赤心ヨリ實効
相立候儀ニ候條特別ノ御詮議ヲ以テ非常ノ御賞與相成

十年六月

候様致度此段相同候也

(指令)十年六月 伺ノ趣石塚藤三郎外五人特典ヲ以テ各

本罪ニ二等ヲ減ス

但各犯へ申渡ノ上ハ其旨該裁判所へ届置ク可シ

印行所 東京 博聞社

七月二日
指令

司法省指令録刑事部第三十五號

(第四百三十二)池中へ轉溺ノ小兒ヲ救助セシ懲役人特典

伺)十年五月 長野縣

管下信濃國高井郡日瀧村平民中村源五郎儀兇徒聚衆ノ
科ニ依リ准流十年處刑中埴科郡松代町へ外役申付置候
處去月七日同町ノ内字殿町通行ノ砌同所住士族福田勝
敏二女シウケ二年十池中へ轉溺セシヲ自ラ水中へ投入シ
盡力危急ヲ救援セシ段奇特ノ儀ニ付特典ヲ以相當ノ御
處置相成度別紙本人口供并獄丁始末書(略)相添此段相同
候也

(指令)十年七月 伺ノ趣中村源五郎特典ヲ以テ本罪ニ一等
ヲ減ス

十年七月

但犯人へ申渡ノ上ハ其旨該裁判所へ届置ク可シ
〔第四百三十三〕同四ノ誤テ井中ニ落入タルヲ救上ケシ者
特典伺十六日 大坂府

本年三月十一日懲役人上羽源七井戸へ墮同囚青木休式
外拾壹人相助ケ候一件別紙口供寫〔略〕ノ通ニ付爲賞青木
休式無籍萬之助ハ本罪ニ一等ヲ減シ三島隆三郎外九人
ハ昨九年内務省乙第百十一號達ニ照準シ賞與取計可然
哉

但本文伺ノ通取計可然儀ニ候ハ、萬之助儀ハ元來本
罪十年ノ者ニ付七年トナシ加フル四年共合計十一年
トナシ可然哉又ハ加フニ四年ヲ一等トシ相減シ十年
トナシ可然哉斷案寫〔略〕進達添テ相伺候也

〔指令〕十年七月二日 青木休式并萬之助特典ヲ以テ各本罪ニ一
等ヲ減ス

但書萬之助減等ノ法ハ原役加役ヲ併セ零四年ヲ除キ
十年ヨリ一等ヲ減シ懲役七年ニ處スル儀ト心得可シ
三島隆三郎外九名賞與ノ儀ハ伺ノ通

七月六日 指令
〔第四百三十四〕懲役人遊歩等ノ爲メ脱監再三ニ及フモ逃
走ノ念ナキ者處分伺十二年六月 高知縣

假令ハ懲役人夜看守ノ隙ヲ窺ヒ竊ニ其監獄ヲ脱シ遊歩
シ或ハ所持金兼テ隱匿シ得ヲ以テ酒肴ヲ買得シ或ハ料
理店等ニテ遊慰ヲ爲シ竊ニ歸獄スルヲ再三ニ及フト雖
モ毫モ逃走ノ念ナキモノ其遊歩スル者ハ改定律第三百
七條ノ前項ニ其酒肴ヲ買得シ又ハ料理店等ニテ遊慰ヲ

十年七月

爲シ歸獄スル者ハ同條ノ後項ニ比擬シ處分然ル可キ儀ニ候哉將タ右等ノ如キハ監獄則第八條第六則ニ依リ獄司ニヲイテ處分可然哉

(指令) 十月六日 伺之趣監獄則第八條ニ依リ獄司ニ於テ處分シ不苦儀ト可心得事

以下七月七日指令

(第四百三十五) 上告手續並ニ大審院章程又ハ罪犯責付中

賄料ノ儀監守盜贓ヲ借受ル者人ヲ毆ントシタル者人命放火ノ罪囚存留養親及ヒ禁獄者老疾收贖ノ儀又ハ華士族拘留或ハ責付或ハ禁獄限内ニ脱獄及ヒ逃走スル者等處分方同) 十月五日 福島裁判所

第一條 控訴上告手續第二十七條ニ第一刑ノ言渡ヲ受ケタル者トアルハ唯リ刑名ヲ宣告サレタル囚人ノミナ

ラス假令ハ強竊盜ノ事主及ヒ典舖等贓品追給賠償等總テ該事ニ附帶シ其處分ノ申渡シヲ受ケタルモノヲモ概稱スル儀ト相心得可然哉

第二條 同第三十五條ニ大審院ハ上告ヲ審按シ云々若シクハ單ヘニ其擬律ヲ平翻シテ原裁判所ニ發付シ處分セシム其判文ハ並ニ理由ヲ付ス可シトアリ其判文並ニ理由書ヲ受取タル裁判所ニ於テ其處分ヲ行フキハ該上告人ヲ獄庭ニ延キ判文並ニ理由書ヲ宣告ス可キ哉將タ書記局ヲシテ上告人ニ傳達セシムルノミニテ可然哉
第三條 大審院章程第三條ニ依ルニ同院ノ命ニヨリ上告事件ヲ判決スル裁判所ニ於テハ判決後其審案并ニ判文等ヲ同院へ遞付ス可キ儀ト相心得可然哉

十年七月

第四條 各罪犯ノ中裁判官ヨリ吟味中用宿其他親族隣保等ニ責付スルキ其賄料ノ儀ハ明治九年三月十日内務省乙第二十六號達ニ照準シ地方官ヨリ支辨スル儀ト相心得可然哉

第五條 監臨主守官ノ金穀ヲ私ニ使用融通スル者ハ監守盜ヲ以テ論ス可キ旨本年四月二日本省丁第三十二號ヲ以テ御達相成候處常人ニシテ其情ヲ知テ分借融通ヲ受クル者ハ罪同ニ治ス可キ哉將タ強盜及ヒ略賣和誘ノ賊タルヲ知テ受クル者ト同シク竊盜ニ準シ從トナシテ可論歟

第六條 爭論ノ末梃棒等ヲ以テ人ヲ毆ントスル際還テ其人ニ取押ヘラレ其人ヲ毆チ得サルモノハ手足ヲ以テ

人ヲ毆チ傷ヲナサ、ル者ニ比擬シ治罪可然哉

第七條 明治九年本省日誌第十號足柄裁判所伺ニ人命放火ノ罪ヲ犯シ懲役終身ニ發遣セラレ、者ト雖モ限内老疾羸弊シテ役ニ堪ヘサル者ハ收贖ヲ聽ルサレ候旨御指令相見ヘ居リ候仍テハ人命放火ノ罪ヲ犯シ懲役終身ニ當リタル者ト雖モ存留養親スルヲモ聽サル、儀ト相心得可然哉

第八條 華士族閏刑ヲ犯シ禁獄ニ處セラレ、者限内老疾スルキハ獄舎又ハ私宅ニ於テスルトヲ論セス懲役限内老疾例圖ニ照シ收贖セシメ可然哉

第九條 華士族破廉恥甚ニアラサル罪ヲ犯シ審訊中拘留或ハ親屬等へ責付スル者逃走スルキハ律ニ照シ拘留

者ハ本罪上ニ二等責付者ハ同シク一等ヲ加フル迄ニテ破廉恥甚ヲ以テ論セスシテ可然哉

第十條 華士族禁獄限内脱獄逃走スル者ハ例第三百七條潛出スル者ニ擬シ懲役七十日贖ヲ聽シ仍ホ新ニ原限ヲ科シ破廉恥甚ヲ以テ論セスシテ可然哉

〔指令〕十年七月七日 第一條 刑名ヲ宣告サレタル犯罪者ノミヲ指稱ス

第二條 處分トハ判事獄庭ニ臨ミ大審院ノ理由ヲ付シタル判文ヲ上告人ニ傳達スルノミナラス拘置日數算入等ノ處分ヲ宣告スル儀ナリ

第三條 審案並ニ判文ハ遞付スルニ及ハス

第四條 同ノ通

第五條 常人ニシテ情ヲ知テ分借融通ヲ受クル者ハ

盜賊窩主律末項ニ照シ處分ス

第六條 毆チ得サル者ハ闘毆律ニ依テ論スル限ニ在ラス

第七條 同ノ通

第八條 老疾スルモ贖ヲ聽サス

第九第十條 破廉恥甚ヲ以テ論スル限ニアラス

〔第四百三十六〕牛馬賣買之儀ニ付 同 十年六月二十六日

靜岡縣

牛馬賣買規則第六條ニ無鑑札ニテ賣買不相成云々トアリ右ハ單ニ渡世者ノ互ニ賣買シ利ヲ計ルモノヲ指シタル儀ト相心得可然哉果シテ然ラハ茲ニ自己所用ノ牛馬

十年七月

ヲ事故アリテ他人へ賣渡シルモノヲ云サ其買得者全ク自己所用ニ充ルモノニシテ爲メニ利ヲ計リ又他へ賣渡等ノコナキハ犯則ノ限ニアラスト相心得可然哉又ハ利ヲ計ルニアラサレヒ渡世者ノ手ヲ經サレハ犯則ヲ以テ論スヘキ哉

〔指令〕十年七月七日 伺之趣牛馬賣買渡世ニ非サル者自己所用

ノ牛馬ヲ他人ニ賣渡シ其買得者亦自己ノ所用ニ充ル者双方共犯則ノ限ニ非スト可心得事

〔第四百三十七〕日誌九年第六十三號丁十一長崎上等裁判所

同第一條指令左ノ通改正十年七月九日

遅參不參ノ始末書ハ通常白紙ヲ用フヘシ

〔第四百三十八〕村吏租税金費用ノ末自死スル者贓金追徴

七月九日
指令

七月十日
指令

之儀ニ付伺十年六月二十五日

愛媛縣

民吏某甲其所管ノ人民ヨリ取纏メ當サニ官ニ納ムヘキ租税金ヲ私ニ支消セシ末逃亡セシト發覺セルニ付警察官ニ於テ蹤跡探偵中某甲其終ニ遁ルヘカラサルヲ料リ自死スルアリ本人ノ口供ナシト雖ヒ其將サニ自死セシトスルノ際其贓ヲ負ヒタルト其親族某乙ニ告ケシ旨某甲カ自死ノ後某乙ヨリ之ヲ届ケ出ルノミナラス村方収税帳簿ニ就テ之ヲ檢スルニ其贓數固ヨリ分明ナルモノハ當サニ其相續人ヨリ資力限り追徴スヘキカ抑モ追徴スルニ及ハサルカ右相伺候也

〔指令〕十年七月十日 證左明白ナルニ於テハ相續人ヨリ資力限り追徴ス可シ

十年七月

七月十二日
指令

(第四百三十九)物品借用證文ノ儀ニ付伺(二十年六月十八日)

東京裁判所

證券印稅規則第二類ニ賣買用諸品借用證文之儀ハ明記有之候得共賣買用ニ係ラサル品借用證書ノ廉掲載無之上ハ假令右之類白紙ニ認ムルト雖モ罰スルニ不及儀ト心得可然哉

(指令)十二年七月 伺之趣賣買用ニアラサル諸品借用證文ニ印紙ヲ貼用セサル者思借ナレハ不問ニ置クト雖モ

其賃借ニ係ル者ハ證券印稅規則第二類諸證書中金錢約定證文ニ該ル可キ者ナレハ同規則第四則第二條ニ依テ處斷スル儀ト心得事

以下七月十七日指令

(第四百四十)上告手續上ノ儀ニ付伺(十年六月十三日)

大審院

第一條 今茲ニ東京裁判所詰檢事ト兼任檢事(十年二月十六日丁)

第十號ヲ以テ東京裁判所詰檢事トノ二官アリテ兼任檢事ノ直接ニ東京裁判所詰檢事ヲ經由求刑スル事件アリ其被告ニ又別條犯事アリテ本官檢事ヨリモ求刑スルノ後裁判官ハ二罪俱ニ發スルヲ以テ論シ二罪ヲ同時ニ裁判宣告スルノ際連班ヲ本官檢事ニ通知シ本官檢事ハ此宣告ニ連班シタル時兼任檢事ヨリ求刑セル事件ノ裁判ニモ連班ノ効アリト相心得可然哉

第二條 若シ檢事ノ連班ヲ要セスシテ裁判宣告ヲナシタル時廿四時間控訴上告手續ヲ經過スルノ後ニ至リ檢事始メテ其宣告ノ旨ヲ知リタルカ如キ自己ノ錯誤

ニヨルニ非スト雖モ既ニ成規ノ時限ヲ過ルヲ以テ該
檢事ニ於テハ上告スルノ權ヲ失フ者トスヘキ哉又ハ
宣告ノ旨ヲ確知スルノ時ヨリ起算シ二十四時間ハ尙
上告ノ期限内ト做シ可然哉

右兩條相同候條至急仰御指揮候也

〔指令〕十年七月十七日

第一條 本官檢事ヨリ求刑セシ事件ノ

裁判ニ兼任檢事ノ連班スルモ亦兼任檢事ノ求刑セシ
事件ノ裁判ニ本官檢事ノ連班スルモ俱ニ連班ノ効ア
リトス

第二條 裁判宣告ニハ必ス檢事ノ連班ヲ要スル儀ト
心得可シ

但シ檢事不得止事故アリテ連班セス定規ノ時限ヲ

經過スルノ後チハ檢事ニ於テハ上告スルノ權ヲ失
フモノトス

〔第四百四十一〕軍夫ニ服役セシ懲役人特典伺〔十年六月二十六日〕

福岡縣

鹿兒島賊徒御征討ニ付懲役囚平野亦七外百三十七人ノ
者共本年二月以降軍夫トシテ熊本縣下へ致派遣置候處
別紙ノ通警部ヨリ申出殊勝ノ者共ニ付特別ヲ以夫々減
等相成候様致度此段相同候也

別紙

先般鹿兒島逆賊熊本縣下へ侵入御征討ノ節懲役囚
平野亦七外百三十七人ノ者共軍夫トシテ本年二月
二十五日以降追々同縣下へ派遣相成候處高瀬戰爭

十年七月

ヨリ兩迫間ニタ股田原坂植木其他諸村々ニ於テ激
戰ノ際尋常出夫ノ者共恐怖逃散セシ者モ有之候得
共該役囚ニ於テハ更ニ其色ナク能ク指揮ヲ守リ身
命ヲ抛チ飛丸ノ中ヲ奔走シ大小砲彈藥兵糧ヲ運搬
シ或ハ負傷人ヲ擔送シ又ハ患者ヲ看護シ其他種々
官軍ノ使役ニ供シ晝夜ノ區別ナク粉骨碎身屢々危
難ヲ經テ遂ニ熊本城ニ到リ五月七日迄孜々勉勵官
軍ノ使役ヲ辨セサルナク實ニ殊勝ノ者共ニ付別紙
〔略〕、通出役日數ノ長短ト勉勵ノ優劣トニ依リ級ヲ
三等ニ區別シ特典ヲ以テ順序減等相成候様其筋へ
御上申相成度此段及上申候也

〔指令〕十年七月十七日

伺ノ趣懲役人平野亦七外百二十名特典

以テ本罪ニ二等ヲ減シ崎村勘兵衛外十六名ハ本罪ニ
一等ヲ減ス

但德永久作儀重傷ヲ負フニヨリ減等ノ上剩役ニ服
スル能ハサル見込アレハ收贖ニ及ハス直チニ放免
ス可シ

申渡ノ上ハ其旨原裁判所へ届置ク可シ

以下七月十日(第四百四十二)一時戸長へ責付スル盜犯逃走ノ儀ニ付伺
八日指令

二十年六月二十八日

松江裁判所

爰ニ警察官ニ於テ盜犯ヲ捕得シテ桎梏ヲ施シ仍ホ縛繩
ノ上之レヲ戸長ニ責付シテ人家ノ一室内ニ入レ置カシ
メタルニ看守人ノ隙ヲ覘ヒ其楯具ヲ破毀シテ脱逃セシ
ハ尋常責付内逃走者ノ類ニアラサルヲ以改定律例第二

十年七月

百九十三條ニ依リ脱監越獄ヲ以テ論シ本罪上ニ二等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ルモノト心得可然哉

(指令)十年七月 一時警察ノ便宜ニ依リ捕縛ノ儘戸長ニ

責付スル者ハ吟味中責付スル者ト異ニシテ乃チ押解

中逃走スル者ト同シキニ依リ何ノ通脱監越獄ヲ以テ

論シ本罪ニ二等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル儀ト心得可

シ

(第四百四十三)酒類醸造高ヲ隠蔽シ未タ賣捌カサル者處

罰方伺(十年六月三十日)

長崎裁判所

明治九年本省日誌第六十五號敦賀縣伺ニ云酒類稅則賞罰例ノ醸造高ヲ隠蔽シ賣捌候者ハ其代價取揚云々明條有之候得共其隠蔽セシ迄ニテ未タ賣捌カサルモノ、正

條無之ニ付檢査ノ際右密蔽ヲ檢出スルト雖モ求刑スル

正條無之右ハ如何相心得可申哉云々ニ隠蔽醸造高取揚

ケ密造同様處分スヘシト御指令有之由是觀之ハ右規則

第三則第三條ハ檢査ヲ受ケヌ又ハ檢査ノ際醸造高ヲ隠

蔽シ賣捌キ候者ハ其代金取揚密造同様ノ科料可申付ト

ノミ有之候得共密蔽シテ未タ賣捌カサル者ノ處罰モ右

條中ニ含蓄致シ居候哉然リト雖モ右賣捌キ候者ハトノ

文勢所謂過去ノ語ニシテ未タ賣捌カサル者ヲ罰スルノ

明文ニアラス然シテ該條中ニ云フ密造同様トハ密造者

ニ科スル同様壹石ニ付七拾五錢ノ科料申付ル迄ニテ密

造者ノ如ク其器械迄取揚ケタル上石ニ付七拾五錢ノ科

料申付ル儀ニハ有之間敷果シテ然ラハ第一條ハ其酒類

十年七月

ハ勿論云々ト云ヒ尙ホ但書ニ至リ密造酒類已ニ賣捌候
ハ、其代金取上ルト有之其酒類ノ現在スルト不然トヲ
問ハス沒收スルハ明瞭論ヲ待タスト雖モ第三條ニ至リ
テハ只賣捌タル者ノミノ明條ヲ掲ケ未タ賣捌カサル者
ニ明示スル條ニアラスシテ不言ノ内ニ處罰ヲ行フニ似
タリ明示セスシテ處罰ヲ行フ聊カ疑惑ヲ生シ候條右第
三條ノ適旨御明示相成度此段奉伺候也

〔指令〕十年七月 伺ノ趣酒類釀造高ヲ隱蔽シ未タ賣捌カ
サル者ノ罰ハ酒類稅則第三則第三條中ニ含蓄スル儀
ト心得ヘシ

但敦賀縣伺指令密造同様ノ處分トハ密造同様ノ科
料ヲ追スル儀ト可心得事

〔第四百四十四〕水中ニ轉溺セシ人ヲ救援シタル懲役囚特

典減等伺 十年七月十六日

長野縣

管下信濃國更級郡桑原村平民宮本房治儀偽造寶貨ノ科
ニ依リ准流十年處刑中佐久郡岩村田町へ外役申付置候
處本年二月十一日同所ツネキ川端通行ノ節同所住士族
別所春房母ヤス 七十轉溺セシヲ自ラ水中へ投入シ壹力
危急ヲ救援セシ段奇特ノ儀ニ付特典ヲ以相當ノ御處置
相成度別紙〔之略〕本人口供及ヒ該所出張獄丁届書相添此段
相伺候也

〔指令〕十年七月 伺ノ趣准流人宮本房治特典ヲ以テ本罪
ニ一等ヲ減ス

但申渡ノ上ハ其旨原裁判所へ届置可シ

十年七月

印行所 東京 博聞社

司法省指令録刑事部第三十六號

(第四百四十五)武立吉次赦典ヲ乞フ上申書(十年七月五日)

滋賀縣

明治九年御省日誌第四十一號長崎裁判所檢事局ヨリ檢事章程第三條裁判ヲ得ルノ後云々其赦典ヲ乞フヘキ者ハ意見ヲ附シ司法卿ニ具上ストアリ右裁判ヲ得ルノ後赦典ヲ乞フ者ハ未タ決行セサル三日ノ間ニ限ル儀ト相心得可然哉ト相伺候ニ伺ノ通リト御示令相成由是考之ニ檢事章程第三條ニ依リ赦典ヲ乞フ可キモノハ裁判宣告ノ後具上ス可キハ勿論ニ候得共本罪懲役百日以下ノ者ニ至テハ本縣未タ從前ノ通り笞杖實斷スルヲ以テ裁判宣告ノ後具上ノ手續ヲ爲シ候テハ夫カ爲メ空ク決行

一
十年七月

ヲ停止セサルヲ得ス別紙(之略)本縣近江國坂田郡第七區醒
 ク井村武立吉次ナル者同獄囚北村德彌ノ縊死ヲ報告救
 援スル如キ本罪一等ヲ減セラレ可然ト見込候然ルニ其
 本罪懲役百日以下ト思量スルヲ以テ裁判宣告ノ後赦典
 ヲ具上致シ候テハ御示令有之候迄空ク決行ヲ止メサル
 ヲ得ス該件ハ未タ求判ノ場ニ至ラス候得共豫シメ赦宥
 ノ儀伺定置追テ裁判宣告相成候得ハ直ニ減等申渡候様
 致シ度尤不日求判ノ見込ニ候間別テ至急御示令有之度
 本犯口書其他書類共寫(之略)相添此段相伺候也

〔指令〕十年七月十九日 伺ノ趣該犯ハ未決囚ニシテ本罪未タ定

マラサル者ナレハ檢事章程第三條ニ照據スヘシ尤モ
 答杖實斷ノ者ハ赦典具申中責付致置候儀ト心得ヘシ

〔第四百四十六〕警部代理ノ巡查檢事ノ務ヲ行フヲ得ヘキ
 ヤ否ノ伺 十年五月十六日 島根縣

裁判支廳區裁判所等設置有之地へ出張ノ警部疾病事故
 有之巡查へ代理申付候節求刑及刑名宣告ノ節臨席等檢
 事ノ務ヲ行フヲ得ヘキ哉至急御指揮有之度此段相伺候
 也

〔指令〕十年七月二十日 伺ノ通尤警部病故アル節ハ欠席ストモ
 妨ケス

〔第四百四十七〕囚獄場ノ一室ヲ禁獄舍トナス儀ニ付伺 十
 年七月六日 大坂府

七年御省第十六號禁錮ヲ禁獄ニ改メラレ追而獄舍建築
 等御達相成候迄私宅内ニ於テ締リ相付云々御達有之候

處到底私宅内ニ於テハ取締方不行届ノ廉モ有之候ニ付
當府囚獄場ノ一室ヲ仕切リ當分禁獄トナシ該場ニ於テ
取締相付候得ハ便利ノ儀ニ付右之通取扱不苦候哉此段
相伺候也

〔指令〕二十年七月 伺ノ通

〔第四百四十八〕大審院判文御下渡ノ儀ニ付伺 十年六月廿日

堺 縣

當縣懲役人山下長藏外三拾一名犯罪ノ儀ニ付曩ニ大坂
裁判所當地支廳ニ於テ處斷相成候處不法ノ裁判ニ付當
縣舊一等警部衫浦貞利外三名ヨリ上告致候處今般大審
院ニ於テ破毀相成兵庫縣へ右處分方御達相成候由ニテ
過ル十八日同縣ヨリ右囚人并關涉書類請取方ノ照會有

之候得共當縣へハ何等ノ御達無之ニ付同日直ニ電信ヲ
以テ引渡可申哉否相伺候處今廿日可引渡旨電報ヲ以テ
御下達相成候ニ付則引渡申候就テハ兵庫縣へ御達相成
候判文寫ヲ見ルニ衫浦貞利等ニ於テハ神戸裁判所へ求
刑ス可シト有之因之視之同縣へ御下渡ノ判文ハ當縣へ
御下渡可相成筋乎ニ被存候果シテ然ラハ右判文本紙ハ
同縣ヨリ當縣へ請取同縣へハ寫ヲ以テ可相渡乎又ハ御
省ヨリ別ニ御下渡可相成乎相伺候也

〔指令〕二十年七月 伺ノ趣大審院ノ判文ハ審判ヲ移サレタ
ル裁判所々在ノ地ノ檢察官吏ニ下付シ相當ノ所分致
サセ來候ニ付今般限リ従前ノ通り取計ヒ置キ今後右
判文ハ上告人ニ下付スルヲ以テ其上告人ヨリ審判ヲ

十年七月

移サレタル裁判所ニ求刑スル儀ト心得ヘシ尤モ檢事ノ事務ハ審判ヲ移サレタル裁判所々在ノ地ノ檢察官吏之ヲ行フ可シ

(第四百四十九)先非悔悟驅役ヲ勉勵スル役囚特典放免之

儀伺 十年七月十二日

石川縣

越中國射水郡串田村

大澤茂左衛門

右之者竊盜ノ科ニヨリ明治四年四月二十四日懲役七年處刑相成候處入場以來先非悔悟能ク獄則ヲ守リ驅役ヲ勉ムル他囚ニ勝ル者ニシテ一等期限ノ央ヲモ經過候ニ付特典ヲ以直ニ放免相成候様致シ度依テ掛員具申(略)相添此段相伺候也

(指令)十年七月二十七日

伺之趣懲役人大澤茂左衛門儀特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス役限己ニ過ルヲ以テ直ニ放免ス可シ

可シ

但申渡ノ上ハ其旨原裁判所へ可通知事

(第四百五十)外役中同囚ノ逃走ヲ捕得スル懲役人處分之

儀ニ付伺 十年七月十八日

椽木縣

懲役人外役中管守ノ隙ヲ窺ヒ逃亡スルアリ同外役ノ懲役人百方盡力終ニ捕縛スレハ改定律例第三百四條ニ照シ處分スヘキ旨御省日誌明治七年二月愛媛縣へ御指令アリ右ハ内役ノ懲役人ト雖モ同囚ノ逃亡ヲ捕得スルニ於テハ其場合ニ依リ役場ノ周圍内外ヲ論セス右例條ニ照シ處分スヘキ見込ヲ以テ裁判官ニ付シ可然哉

十年七月

〔指令〕三十年七月
ノ内外ヲ論セス伺之通例第三百四條ニ依リ裁判官ニ
於テ處分スル儀ト心得可シ

〔第四百五十一〕士族並婦女遺失物ヲ得官私ニ送還セサル
者懲役人又犯罪條例、婦女犯罪無力不能贖者、例第二
百五十一條ノ紙幣ヲ未タ行使セサル者、及其紙幣ヲ
借受行使スル者、又ハ車稅犯則ノ儀ニ付伺、三十年七月三日

高知縣

第一條 明治七年御省日誌第三十五號滋賀縣伺云々御
指令ニ賊盜律内ニ非スシテ諸律ニ散見スル准盜ノ罪ハ
婦女ハ收贖ヲ聽スト有之ニ付遺失物ヲ得藏匿官私ニ送
還セサル婦女ハ收贖ヲ聽シ士族ハ破廉耻甚ヲ以テ論セ

ス可然哉

第二條 明治十年三月廿五日第二十五號公布改正懲役
人又犯罪條例中懲役終身ノ囚又一年以上ノ罪ヲ犯ス者
ハ四日以上七日以下ノ棒鎖改テ四日以上六日以下ノ棒
鎖ヲ科スト之レアリ右棒鎖ヲ科スルニ懲役一年一年半
ノ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖四日二年二年半ノ罪ヲ犯ス者ハ棒
鎖五日三年ノ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖六日ヲ科スル儀ト相心
得可然哉

第三條 改定律第三十九條婦女不孝姦盜人命放火ノ徒
罪以上ヲ犯ス者ハ云々並ニ懲役ニ服ス其余ノ罪收贖ス
ヘキ者無力贖フ能ハサル者懲役百日以下ハ折半シ一
年以上ハ五等ヲ減シ並ニ懲役ニ服スト若シ百日ノ罪ヲ

十年七月

犯シ收贖スルニ内六十日贖フ資力アリト雖モ剩罪無力ニシテ贖フコト能ハサルキハ其剩罪ヲ折半懲役ニ服シ可然哉又ハ其贖フコトヲ許サス全罪折半懲役シ可然哉

第四條 改定律第二百五十一條紙幣ノ字樣ヲ挑刺シ成片ヲ補綴シ筆畫ヲ描改シ真ヲ以テ偽ニ造リ行使スル者ハ懲役五年トアリ若シ未タ行使セサル者ハ例第二百五十二條ノ權衡ニ依リ一等ヲ減シ可然哉

第五條 爰ニ甲紙幣ヲ取受スルノ後始テ真ヲ以テ偽ニ造リ五圓ノ紙幣ヲ十圓ニ十シ偽幣ニ係リシ事ヲ知り貯藏スルヲ乙其情ヲ知テ事故監視人ニ檢ニ託シテ借出シ其偽幣ヲ以テ負債五圓ヲ償還シ剩金五圓ヲ受取ル者アリ右ハ改定律第二百五十一條ニ依リ處斷可然哉

第六條 明治八年五月第廿七號車稅規則第六則ニ諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍料料トハ假令ハ明治八年十月ニ車ヲ新調シ無届營業又ハ使用スルコト明治九年三月ニ至リ發覺スレハ一年分ノ脫稅トナシ其五倍ヲ科シ又同年四月ニ新調シ本年八月ニ至リ發覺スレハ二年分ノ脫稅其五倍牛車ナレハ則十圓ノ料料ニ處スル譯ニ候哉

(指令) 三十年七月 第一條 伺ノ通

第二條 四日以上七日以下裁判官ノ見込ヲ以テ處分ス

第三條 全ク贖フ能ハサル者ハ剩罪百日以下折半シテ懲役ニ服ス

第四條 未タ行使セサル者ハ己ニ行使スル者ニ一等
ヲ減ス

第五條 甲ハ第二百五十八條ニ問ヒ乙ハ第二百五十
一條ニ依リ從トナシテ論ス

第六條 車税規則第三則ニ六月以前七月以後納税ノ
區別ヲ以テ第六則ニ照シ處分ス可シ

正誤

第三十五號二丁十一行(加フニ)ハ(加フル)ノ誤

印行所 東京 博聞社

二八

司法省指令録刑事部第三十七號

(第四百五十二)一家人共ニ金銀ノ器物ヲ偽造スル者ノ儀

ニ付伺(十年七月十六日)

仙臺裁判所

于茲一家人共ニ金銀ノ器物ヲ偽造シ之レヲ典賣姦利ヲ
得共ニ費用スルモノアリ是則人ノ財物ヲ侵奪スルノ罪
ニシテ一家共犯坐尊長ノ限ニアラサルナラソ然ルニ改
定律例第八十條凡一家人共ニ寶貨ヲ偽造スル者ハ一家
共犯律ニ依ル云々トアリ抑偽造寶貨律ハ行使姦利ヲ得
共ニ費用スルモ贓ニ計ヘサルノ律意ナルヲ以テ仍ホ共
犯律ニ依リ金銀ノ器物ヲ偽造シ姦利ヲ得ルハ准竊盜ノ
罪ナルヲ以テ却テ凡人首從ノ法ニ依リ尊長卑幼各自ニ
科斷スルハ權衡太タ允當ナラサルヲ覺ヘ疑團難決相伺

十年八月

候

〔指令〕十年八月二日偽造寶貨律ハ一時濟世ノ嚴典ナルヲ以テ特別之ヲ共犯例ニ置ク他律ト比較ス可キ者ニ非ス何面ノ如キ詐欺取財ニ係ルハ父子共犯スルモ凡人首從ノ法ニ依ル

〔第四百五十三〕諸罰則犯則者ヲ告訴スル者へ賞金附與之儀ニ付伺 十年七月十九日 京都裁判所

訴訟用罫紙又ハ煙草犯則等ノ者告訴スル者へ賞トシテ犯者ヨリ追スル罰金ノ半額ヲ給與スル儀ハ全ク行政上ノ處分ニシテ之ヲ裁判所ヨリ直ニ附與スルノ儀ハ不都合ノ筋ニ相見候間右ハ罰金追徴ノ上共給與ノ金額ハ地方廳へ差廻同應ヨリ夫々給付有之候様照會可仕ト存候

得共一應此段相伺候也

〔指令〕十年八月七日何之趣出訴人賞金ノ儀ハ裁判官ヨリ附與シ不苦候事

〔第四百五十四〕租税金ヲ私借費用スル者之儀ニ付伺 十年七月十七日 仙臺裁判所

于茲人民ヨリ徵收シ區務所へ領置シアル租税金千圓ヲ監守ノ戸長ニ於テ私借費用ス納期ニ迫リ該地方廳ヨリ再三催追セラレ其實已ニ發覺ニ係リ還完ノ延期ヲ請フ該地方廳之レヲ允許ス而シテ後百方金策スルモ其期日ニ至リ遂ニ金百貳拾圓餘完スル能ハサル者アリ抑其私借スル所ハ現ニ金千圓ナレハ則是監守自盜贓金千圓ノ賊ナルカ如シ然ルト雖該地方官ニ於テ管內租額ノ完全

十年八月

ニ汲々タルヨリ或ハ便宜餘裕ヲ存シ前顯完納ノ延期ヲ
與フルハ施政上是亦已ムヲ得サルノ情實ニ可有之乎果
シテ然レハ金千圓ノ全額ヲ賍ニ計フルハ酷ナルヲ覺フ
仍テ止タ完納シ能ハサル金百貳拾圓餘ヲ賍ニ計ヘ處分
イタシ可然哉

但シ本文賍金ハ現ニ租税ニ係ルト雖固ヨリ一已一分
ノ租税未納者ト同視シ難シ仍テ資力中公証ヲ以テ他
ヘ抵當質入ノ物件アルキハ糶賣シテ先ツ其負債ヲ償
ハシメ次ニ該賍ヲ追シ可然哉

〔指令〕十年八月八日伺ノ趣已ニ發覺シ延期中内金返還スト雖モ
賍ヲ計フルハ私借費用スル所ノ數ヲ計フヘシ尤モ地
方廳ヨリ延期ヲ聽シ内金八百圓餘ヲ還納スル廉ヲ以

テ酌量輕減スルハ裁判官ノ意見ニ任ス

但書伺ノ通

〔第四百五十五〕水中ニ轉溺セシ人ヲ救援シタル懲役人特
典伺二十年七月五日 三重縣

伊勢國桑名郡下深谷村平民

明治十年四月宣告兇徒ニ隨行 西塚金次

同國同郡抽井村平民

同斷 伊藤清六

同國三重郡菰野村平民

同斷 栗本藤四郎

同國桑名郡下深谷村平民

同斷 伊藤總五郎

同國朝明郡田口新田平民

同斷ノ科ニ依リ懲役三年

山本善三郎

同國桑名郡美鹿村平民

同斷

石川伊次

同國朝明郡柳村平民

同斷

内田作次郎

同國飯高郡魚見村平民

同斷ノ科ニ依リ懲役十年

中川莊次郎

同國朝明郡田光村平民

同斷

諸岡市助

武藏國豊島郡本郷春木町無籍

明治九年十一月宣告窃盜ノ科ニ依リ懲役十年

歌吉

近江國甲賀郡大津驛出生無籍

授産人

龜吉

右ノ者共本年六月十九日外役先ニ於テ度會郡山田中島町出口多七雇人勘吉十四ナル者同所宮川へ轉墜シ浮沈困苦殆ント死セントスルヲ見認西塚金次伊藤清六ナル者直ニ水中へ飛入救援候段殊勝ノ事ニ付右兩名本罪減等ノ御赦典有之度且栗本藤四郎以下八名ハ明治九年内務省乙第一百十一號達ニ照準シ常食外加給ス可ク見込ニ有之候依テ懲役場詰十等警部濱口巽具申書並ニ假口供三通(之)相添此段具申候也

(指令)十年八月十日懲役人西塚金次伊藤清六ハ特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減シ栗本藤四郎外八名ハ明治九年内務省乙

十年八月

第一百十一號達ニ依リ賞與ス可シ

(第四百五十六)赦典ヲ乞フ手續ノ儀ニ付伺(二十年七月二十八日)

滋賀縣

本月五日付ヲ以當縣下近江國阪田郡第七區醒ヶ井村武立吉次ナル者同獄囚北村德彌ノ縊死ヲ報告救援スル者ニ付本罪一等ヲ減セラレ可然ト見込候然ルニ其本罪懲役百日以下ト思量スルヲ以テ裁判宣告ノ後赦典ヲ具上致候テハ御示令有之候迄空シク決行ヲ止メサルヲ得ス該件ハ未タ求刑ノ場ニ至ラス候得共豫メ赦宥ノ儀伺定置追テ裁判宣告相成候ハ、直ニ減等申渡候様致度段相伺候處明治十年七月十九日付ヲ以テ伺之趣該犯未決囚ニシテ本罪未タ定マラサル者ナレハ檢事章程第三條ニ

照據ス可シ尤笞杖實斷ノ者ハ赦典具申中責付致置候儀ト心得可シト御指令有之他管下ノ者ニテ前同様ノ者有之責付ス可キ親屬等モ無之者ニ至テハ笞杖ヲ一時懲役ニ換ヘ可然候ヘ其日數三十日内外ノ者ナレハ滿期ノ日迄逆モ御指令到達セス是等ハ如何取扱ヒ可然哉右即今差掛リ他管下ノ者ニテ赦宥ヲ乞フ可キ見込ノ罪囚有之候儀ニ付至急御指揮相成候様致度此段相伺候也
(指令)十年八月 伺面ノ如キハ區務掛リノ戸長書記等へ預ケ置候儀ト心得ベシ

(第四百五十七)已決囚訴訟ノ被告人タル時曠役日數之儀ニ付伺(十年七月十八日) 島根縣

已決囚民事訴訟ノ被告人トナリ法衙ノ喚起ヲ受出頭ノ

十年八月

日數役限内或ハ禁獄限内へ算入方ノ備審判終リ直ナルトキハ算入シ曲ナルトキハ算入不致歎果シテ然レハ滿期ニ至ルモ曲直不決トキハ如何相心得可然哉

〔指令〕十年八月 伺之趣審判ノ曲直ニ論無ク曠役ノ日數ハ償ハシムル儀ト可心得事

〔第四百五十八〕懲役囚特典施行之儀ニ付伺 十年七月十八日

京都裁判所

監獄則懲役第十二條中第八條賞罰例ニ懲役五年以上ノ囚能ク獄則ヲ守リ工役ヲ勉ムルヲ他囚ニ勝ル者ハ第一等期限ノ半ヲ過キ獄司具狀シ裁判官ニ告ケ許可ヲ經テ放免ストアル成規ニ隨ヒ同様謹行ノ役囚特典施行之儀地方應ヨリ照會有之候處右ハ本年第十九號公布司法省

章程御改正ニ付テハ右裁判官ニ告ケ云々ノ明文ハ自カヲ消滅シ特典赦宥ヲ請フ可キモノハ直ニ本省へ具狀スヘキ儀ニ付其旨可及回答ト存候得共一應此段奉伺候也

〔指令〕十年八月 伺之通

〔第四百五十九〕不逞徒拘留中病ニ罹ル者責付之儀ニ付伺

十年七月二十四日

松山裁判所

兼テ處分方伺置候愛媛縣下不逞徒拘留致置候者共ノ内病者出來差向大患ニ可陷容體ノ者モ有之候處危篤等ノ場合ニ至リ候節ハ伺ヲ經ス親屬共ニ責付シ嚴重取締爲致置可然哉

〔指令〕十年八月 伺之趣ハ親屬ニ責付シテ保管セシムルヲ許サス病監ニ入レ療養セシムル儀ト可心得事

十年八月

(第四百六十)賭博犯罪處分方ノ儀ニ付伺(十年六月四日)

熊谷裁判所

賭博犯ノ儀ハ現場捕獲及ヒ一場ニ連ル同類ノ者ヲ坐シ
既往犯罪ハ追捕問罪ニ及ハサル儀ト相心得居候處指令
録刑事部第二十號丁二和歌山縣伺ニ若シ衆人指名シテ共
賭博犯タルヲ哄傳シ云々現行犯ニ准スト云フニ照依シ
捕獲問罪然ル可キ哉ニ伺之通ト御指令アリ果シテ然ラ
ハ仮令既往ノ犯罪ト雖モ捕獲問罪セサルヲ得ス然ルキ
ハ是迄許多ノ御指令ニ抵觸シ就中指令録刑事部第一號
七十九丁福岡縣伺ニ司法警察假規則第十二條ハ一般ノ犯罪
ヲ云フ賭博捕獲ハ現場ニ限ル可シトノ御指令ハ允當ナ
ラサルニ似タリ抑モ賭博犯タルヤ他ノ犯罪トハ一種特

別既往ニ係ルハ不問ニ置キ檢事求刑セサルハ勿論ニ付
前書二項ニ舉ル福岡縣伺濟ヲ援引シ穩當ト相考候得共
疑義アリ決兼候間此條相伺候至急御指揮被下度候也
(指令)十年八月 伺ノ趣司法警察假規則第四章第十二條ニ
因リ現行犯ヲ以テ論スヘキモノハ捕獲問罪スル儀ト
心得ベシ

但シ明治九年十月中福岡縣伺ノ指令ハ詮議ニ因リ
改正候事

十年八月

印行所 東京 博聞社

司法省指令録刑事部第三十八號

(第四百六十一)能ク獄則ヲ守リ他囚ヲ獎勵スル役囚特典
放免ノ儀伺(三十年七月三十日) 山口縣

長門國豊浦郡岡枝村平民

懲役五年

井上音吉

三十年七月
二十七年二月

右ノ者儀兇徒聚衆ノ科ニ依リ明治五年十一月廿八日懲
役十年處刑相成候處同八年十二月廿七日當縣懲役場出
火ノ節消防ニ盡カスル功ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ本年
六月廿二日逃亡懲役人ヲ捕獲スル功ニ依リ又一等ヲ減
セラル然ルニ該囚前非ヲ悔悟シ入場以來能ク獄則ヲ守
リ同囚ヲ懇篤ニ諭導シ驅役ヲ勉ムルト他囚ニ抽ル者ニ

一
十年八月

テ一等期限ノ央モ經過候ニ付特典ヲ以テ直ニ放免相成候様致度此段相伺候也

〔指令〕十年八月 伺ノ趣井上音吉特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス已ニ役過スルヲ以テ直ニ放免ス可シ

但犯人へ申渡ノ上ハ其旨該裁判所へ届置ク可シ
〔第四百六十二〕棒鎖科斷方ノ儀ニ付伺 十年七月三十日

松山裁判所

懲役終身ノ囚人再ヒ逃走シ外ニ在テ又懲役終身ノ罪ヲ犯ス時ハ其再逃ノ罪并ニ外ニ在テ犯ス罪共各棒鎖十日ツ、合テ日數二十日ノ棒鎖ニ處スヘキ儀ト存候處或ハ体格ノ強弱ニ依リ其日ヲ切り中間ヲ置キ數日ツ、連行候儀ハ不苦候哉

〔指令〕十年八月 棒鎖ハ素ト懲戒ノ爲メニ付連科スト雖

モ若シ羸弱ニシテ棒鎖ニ堪ヘサル者ハ適宜ニ處分ス可シ

〔第四百六十三〕縊死セントスル授産人ヲ救助シタル役囚
特典減等ノ儀ニ付伺 十年八月一日 愛知縣

三河國加茂郡西中山村

加藤駒藏

右ノ者明治八年十月竊盜ノ科ニ依リ懲役二年半ノ處刑ヲ受ケ役限中明治九年八月暴動ノ罪ヲ以テ入獄致シ置ク處同年十月廿三日午後第七時過先キニ便所ニ至リタル同獄ノ囚無籍授産人松本國次郎ノ出サルヲ怪ミ便所ノ戸ヲ開キ見レハ豈圖ンヤ國次郎儀便所格子ノ貫木ニ

十年八月

繩ヲ掛ケ縊死致シタレハ驚愕大體國次郎縊死セリト叫
ハルヨリ同獄ノ囚無籍授産人辰吉ナル者馳セ來リ種々
介抱手當行届キ漸シ蘇生候次第全ク非命ノ死ヲ救援候
段殊勝ノ事ニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ度依
テ口書二通及副獄司ノ具狀書之略相添此段相伺候也
但シ暴動ノ罪ハ別紙宣告書之略ノ通無罪ノ裁判相成候
也

(指令)十年八月 伺ノ趣懲役人加藤駒藏備特典ヲ以テ本
罪ニ一等ヲ減ス

但シ申渡ノ上ハ其旨原裁判所へ通知ス可シ

(第四百六十四)罪囚減等ノ儀ニ付伺 十年八
月七日

埼玉縣

武藏國埼玉郡須加村

平民農

原保次

右之者該村副戸長勤役中本年二月村方ヨリ徴収スル貢
金七百圓ヲ領置シ終ニ自盜費用スルヲ以テ捕縛本縣成
田警察署ニ於テ拘留中千葉縣管下下總國葛飾郡關宿臺
町平民後藤忠五郎ナル者癡狂ナルニ依リ貫籍等取調中
同檻へ入レ置候處同人儀三月一日午前第二時頃保次等
ノ熟眠スルヲ窺ヒ自分小倉帶ヲ以テ拘留所南隅ノ横貫
へ結ヒ付縊首氣絶スルヲ心付キ直ニ抱キ卸シ咽喉ヲ縊
ル帶ヲ解キ介抱候處漸ク三分時間モ相立蘇生非命ノ死
ヲ遂ケシメサル段全ク保次盡力ノ致ス所最モ奇特ノ事

十年八月

ニ付特典ヲ以テ本罪一等ヲ減セラレ度保次儀ハ既ニ熊谷裁判所浦和支廳ニ於テ審訊シ擬律案ヲ具へ上等裁判所へ遞送相成候ニ付赦典ヲ乞ヒ候也

(指令) 十年八月 具申ノ趣該犯ハ未決囚ニシテ本罪未タ定マラサル者ニ付檢事章程第三條ニ照據スヘキ儀ト心得ヘシ

(第四百六十五) 非現行賭博犯處斷一件上告ノ儀ニ付伺) 十年

八月十三日

大審院 檢事局

愛媛縣平民白川淺吉外十三名處斷一件同縣警部上告ニ付御達ノ趣有之則書類熟閱候處豊島喜太郎外壹人官司ノ差遣ト詐稱シ賭場ニ蹈込ニ之ヲ押ヘントシ金錢ヲ要求シタル事件發覺スルヨリ賭博犯者ヲ糺治セサルヲ得

サル順序ニ相成糺治シテ其實ヲ得各々其罪ニ服スルヲ以テ裁判官之ヲ成文律ニ照シ斷決シタル處愛媛縣警部ニ於テハ本省御指令ノ趣ヲ準據トシ現行ニ非サル賭博犯ニシテ其罪ヲ問フハ不法ナリト上告シタリ抑現行非現行犯ノ區別ハ司法警察上着手ノ順序ニ於テ必要トスル者ニシテ既ニ糺治ヲ經証憑全ク具備シ犯者其罪ニ甘服スルニ至テハ現行非現行ニ依テ處刑ノ輕重ニ關スルノ法理アルヘカラス前件賭博犯ノ如キ糺治セサルヲ得サルノ事由アツテ之ヲ糺治シ既ニ其証ヲ得既ニ其罪ニ服スルヲ以テ成文律ニ照シ處分スルハ法理上ヨリ論スルキハ不法ト云フ可カラサルニ似タリ仮令本省御指令ノ旨趣ニ違フトスルモ八年太政官第百三號布告第五條

十年八月

ニ據ルキハ其指令ニ準據セサルヲ以テ不法トナスヘカ
ラス然ル時ハ到底上告名義無之者歟ト考量イタシ候
右上告處分上ニ付頗ル疑惑ヲ生シ候條此段相伺候現今
差懸リ候儀ニ付至急仰御指揮候也

〔指令〕十年八月 伺之趣賭博犯ヲ坐スルハ現行ニ限ルヘ
シ該犯ノ如キハ固ヨリ現行犯ヲ以テ論スヘキ者ニア
ラス因テ最前相達候通り處分スヘシ

〔第四百六十六〕本年第四十九號公布ニ依リ伺二十年七月
二十六日

仙臺裁判所檢事局

民刑事ノ上告シテ已ニ裁判ヲ經タル云々トハ大審院ニ
於テ原裁判ヲ破毀シテ直チニ裁判ニ及フ事件ニ限リ候
義ニテ其裁判ヲ經タル者不服ナル理由ヲ評記シ檢事ノ

申立ルキハ控訴上告手續第十三條ニ依リ之ヲ却下スル
ト雖モ若シ檢事ニ於テ其裁判ヲ允當ナラスト思料スル
者ハ本人ヨリ申出ルト申出サルニ論ナク別段司法卿ヘ
具申ニ及ヒ候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕十年八月 伺ノ趣本年第四十九號御布告ノ儀ハ檢
事ニ於テ別段具申不及事

〔第四百六十七〕舊金銀價格比較表外ノ判金ヲ贋造スル者
處分方伺十年七月 岡山縣

今爰ニ甲某アリ花小判天正壽永京目甲州小判等ノ五種
ヲ贋造シ固ヨリ其情ヲ明サス乙某ヘ一種一箇ニ付若干
金ニ賣渡乙某全ク真正ノモノト信認シ尙又丙某ヘ若干
金ニ轉賣ス丙買得ノ後不圖贋造ナラシ手ト疑團ヲ起シ

十年八月

試ノ爲右判金ノ内壹箇截斷セシニ果シテ眞物ニ非ス因
 テ乙某ヲ喚ヒ右截斷スル金ヲ相示候處乙驚愕初メテ贋
 造タルヲ知リ夫レヨリ直チニ甲某へ金員悉皆返還セシ
 ト欲セシニ甲へノ路程二三十里モ有之彼是踴躍スル内
 遂ニ甲某捕ニ就キ審糾スルニ果シテ贋造セシ旨ヲ逐一
 白狀ス然ル處右判金ノ如キ渾テ價格比較表外ニ係ルモ
 ノニ付明治七年八月大藏省布達ニ仍レハ全ク地金ト見
 做スヘキモノナレヒ其贋造シタル罪ハ法律ニ問ハサル
 ヲ得サル義ニ候哉又ハ止タ地金ヲ賣買セシモノト見做
 シ不問ニ置テ可ナル哉果シテ問フ可キモノトスレハ乙
 丙ノ者モ當初眞物ト信認スルモ後ニ至リ贋金ナルヲ知
 リツ、尙官へ申報セサルニヨリ是亦律ニ問フ可キハ無

論ニ候哉

〔指令〕二十年八月二十日

舊金銀貨幣價格比較表ニ係ラサル判金
 ハ地金ト見做スニ付之ヲ贋造シテ人ヲ欺ク者ハ詐欺
 取財律ニ依リ其買受ル者ハ官へ申報セサルモ不問ニ
 置ク儀ト心得ヘシ

〔第四百六十九〕舊金銀ヲ相互ニ取引スル者處分方伺
 十年八月

日一

岩手縣

明治七年九月第九十三號ヲ以テ舊貨幣ハ租稅其他一般
 ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止
 旨御布告相成候處今日ニ至テ舊貨ヲ以テ相對取引候者
 ハ違令違式等ノ處分ニ及フヘキ哉

〔指令〕二十年八月二十日 違令ニ問フ可シ

(第四百六十八)同囚ノ誤テ溺死セントスルヲ救助シタル者特典減等ノ儀(伺)十年八月十六日 三重縣

伊賀國名張郡名張新町平民

明治五年十月十四日竊盜再犯ノ科ニ依リ懲役十年ニ處シ明 筒井勘吉
治九年暴動放火ノ際消防ニ盡カスルヲ以テ一等減セラル

同國阿拜郡西山村平民

明治八年三月十五日兇徒聚衆ノ科ニ依リ懲役九年六十六日 山本三五郎
ニ處シ明治九年暴動放火ノ際盡カスルヲ以テ一等減セラル

伊勢國鈴鹿郡井尻村平民

明治四年六月廿七日竊盜三犯ノ科ニ依リ懲役十年ニ處シ明 櫻井治郎吉
治九年暴動放火ノ際消防ニ盡カスルヲ以テ一等減セラル
右ノ者共本年七月十七日外役煉瓦石運搬ノ途中懲役人
西川寅吉ナル者朝明郡蒔田村石橋ヲ渡ル際誤テ煉瓦石
積荷車ト共ニ水中ニ落チ溺レ苦ムヲ前書三名ノ者水中
ニ飛ヒ入り救助シタルニ依リ一時氣絶セシ者蘇生ヲ得

セシムル段殊勝ノ事ニ付各本罪減等ノ御赦典有之度依
テ懲役場詰九等警部鈴木保忠具申書並ニ同場番人共ノ
届書口供一通相添(書類)此段具申候也

(指令)十年八月 伺ノ趣懲役人筒井勘吉外二人特典ヲ以
テ各本罪ニ一等ヲ減ス

但各犯人へ申渡セシ上ハ其旨該裁判所へ届置ク可
シ

(第四百七十)老幼癡篤疾者及官吏ノ讒謗律ヲ犯セシ者處

分方伺(十年八月九日) 静岡裁判所

第一條 讒謗律ヲ犯シ禁獄罰金ヲ併科ス可キ者老幼癡
篤疾ニ罹ルニ犯情ノ輕キハ其範圍内ニ於テ適宜罰金ノ
ミヲ科スヲ得可シト雖モ若シ犯ス處重クシテ二罰併科

十年八月

セサルヲ得サル者ノ如キハ其禁獄ヲ常律ノ收贖ニ換ヘ
罰金ト併セ科シ可然哉

第二條 前條ノ場合ニ於テ官吏ノ犯スニ係ル者ニシテ
其併科ノ内禁獄百日以下ナルハ其禁獄ヲ官吏私罪贖例
ニ照シテ聽贖シ一年以上ハ仍ホ實斷シ可然哉又ハ讒謗
律ハ特別ノ法律ナルニヨリ百日以下ト雖モ無論禁獄實
斷ス可キモノニ有之哉

〔指令〕二十年八月 讒謗律ハ別種ノ律例ニシテ常律ト權衡
比較スル能ハス官吏老幼癡篤疾者ト雖モ仍ホ禁獄罰
金ニ區處スル儀ト心得ヘシ

〔第四百七十一〕懲役人軍夫出役勉勵ニ付特典減等伺〔十年八月〕
三 福岡縣

先般鹿兒島縣賊徒御征討ニ付懲役人平野又七外百三拾
七人ノ者共本年二月己降軍夫トシテ熊本縣下へ派遣致
シ官軍ノ使役ニ從事勉勵候旨殊勝ノ至ニ付特典ヲ以減
等相成度相伺〔指令〕錄第三十五〔候〕後別紙〔之〕略〔之〕通江上壽ナ
ル者全ク掛主任ノ漏漏ヨリ脱漏ト相成候間平野又七外
百二拾人ノ者共同様特典ヲ以テ二等減等相成度此段更
ニ相伺候也

〔指令〕二十年八月 伺ノ趣懲役人江上壽儀特典ヲ以テ本罪
ニ二等ヲ減ス

但申渡ノ上ハ其旨裁判所へ可通知事

〔第四百七十二〕能ク獄則ヲ守リ他囚ヲ獎勵スル者特典減

等伺〔十年八月〕

神奈川縣

十五年 十年八月

東京府下第十一大區一小區
小梅村百十二番地平民

横田惣一郎
二十五歲十月

千葉縣管下下總國千葉郡
檢見川村商仁兵衛四男

竹村熊太郎
二十六歲四月

茨城縣管下常陸國眞壁郡
下館大町商勇助長男

水越兼助
二十七歲八月

右ノ者共懲役處決爾來謹救ニシテ獄則ヲ固守シ役業勉
勵他囚ニ勝レ且ツ惣一郎儀ハ獄内取締向別シテ行届キ
同囚ノ内破獄逃走ヲ企謀スルヲ探偵ノ上報告スルニ依

リ其業果ストイ不能旨監獄署詰官員ヨリ別紙ノ通申牒略
有之候ニ付特典ヲ以テ各本罪ニ一等被減度此段相伺候
也

(指令)二十年八月 伺ノ趣准流入横田惣一郎外二名特典ヲ
以テ本罪ニ一等ヲ減シ已ニ役過スル者ハ直チニ放免
ス可シ

但申渡ノ上裁判所へ其旨通知置シ可シ

(第四百七十三)病囚看護等行届他囚ノ標準ニ成ルヘキ者

特典減等伺)十年八月十日

下野國那須郡石井澤村

明治四年五月三十日 山口喜八

一准流七年

同鳥山縣ニ於テ處刑

同國同郡上境村

十七

十年八月

一同

明治五年九月四日
舊宇都宮縣ニ於テ處刑
一准流五年

同國同郡鴻山村

石川政七

大貫忠太

右ノ者共裁決以來大ニ悔悟良心ヲ表シ獄則ヲ遵奉シ他
囚ニ勝レ役業勉勵候上能ク軟弱ノ者ヲ助ケ復々病囚ノ
看護ニ從フノ際ハ優遇眞實介抱行届實際奇特ノ者共ニ
有之一統ノ標準トモ可相成候ニ付既ニ一等役期限ノ半
ヲ經過致シ候條監獄則第十二條中第八條ニ依リ特典ヲ
以テ放免ノ恩赦有之度別紙主任ノ者具申書之略添此段上
申候也

〔指令〕二十年八月 伺ノ趣准流囚山口喜八外二名特典ヲ以
テ各本罪ニ一等ヲ減シ役限已ニ過ルニ付直ニ放免ス

可シ

但本文申渡ノ上ハ其旨裁判所へ可通知事

十年八月

印行所 東京 博聞社

司法省指令録刑事部第三十九號

(第四百七十四)檢事章程第三條疑義ニ付伺(三十年七月)

福岡縣

檢事章程第三條ニ裁判ヲ得ルノ後犯人ヲ各部官ニ送付
シ其赦典ヲ乞フヘキ者ハ意見ヲ附シ司法卿ニ具上スト
アルヲ以テ縱令大審院批可濟刑名宣告ノ後ト雖モ死罪
者具申スヘキ者ト見認ムルモ檢事ニ於テ執行ヲ止ム
ルノ特權ヲ有スル者ト相心得居候所本年御省指令録第
十二號第二百大坂上等裁判所檢事局ヨリ赦典伺御指令
ニ伺之趣該犯ハ大審院ノ批可濟ニアラサレハ本罪未ダ
定マラス依テ批可濟ノ上仍ホ赦典ヲ乞フヘキ者ナレハ
本年三月當省達第三十六號達ニ據リ減免ノ見込ヲ併セ

一
十年八月

更ニ具申スヘシトアリ之ニ由テ考フレハ未タ刑名宣告
セサル以前赦典ヲ乞フヘキ者ニ相見ヘ候得共刑名宣告
未済ニ於テハ如何ナル裁判可相成歟檢事ニ於テ之ヲ知
リ得ルノ理由ナシ依テ右御指令ハ刑名宣告ノ後ト相心
得可然歟果シテ然レハ本犯ヘハ具申スヘキ旨ヲ申渡シ
決行ヲ止メ置キ捷速具申可致儀ニ候哉疑義ヲ生シ候條
何分ノ御指令相成度此段相伺候也

〔指令〕^{二十}年八月十四日 伺之趣死罪ニ入ル者ノ赦典ヲ乞フハ上等
裁判所檢事ノ權内ニ在リテ地方警察官ノ干涉ス可キ
者ニアラス若シ思赦ノ見込アル時ハ地方裁判所ヨリ
擬律案ヲ上等裁判所ニ遞送スル際同時ニ思赦見込書
ヲ管轄上等裁判所檢事ヘ進遞スル儀ト心得可シ

〔第四百七十五〕盜賊ヲ以テ所有ト詐リ収贖金ニ充シ者之

儀ニ付伺^十年八月十四日

静岡裁判所

甲斐國正摩郡歟澤村早川助之丈ナル者明治八年十二月
静岡縣ニ於テ懲役終身ノ収贖金三拾五圓ニ處セラレシ
節該犯盜賊ヲ包藏シ所有ナリト詐リ當時収贖金ニ充シ
儀此節發露ニ及ヒ然ルニ右金ハ事主相分ラサルニ付到
底官沒ニ屬ス可キモノニ候得共収贖金ト官沒トハ其種
類ヲ異ニシ隨テ各帳簿上記載方モ有之モノナレハ夫々
改正ス可キモノニ候哉又ハ已ニ年月ヲ經且手數モ相懸
リ候儀ニ付其儘据置可然哉

〔指令〕^{二十}年八月十五日 盜賊ヲ以テ贖金ニ充テ己ニ年月ヲ經レハ
正贓費用トナス故ニ帳簿上改正スルニ及ハス

十年八月

〔第四百七十六〕人ヲ謀殺傷シ財ヲ得ル者處斷ノ儀ニ付伺

十年八月九日

松本裁判所

本年御省指令録刑事部中第三十四號大審院伺ニ持兇器強盜人ヲ傷シ財ヲ得ル者アリ追悔自首シ贓徴ス可キヲ以テ改定律例第六十三條ニ照シ云々右ハ其強盜ハ首免ヲ與フト雖モ殺傷ハ謀故闘過失ノ各法ヲ盡スハ勿論ニ候處右御指令ニ伺ノ趣強盜人ヲ傷スル者初ヨリ命ヲ圖ルノ意ニ出ルヲ明白ナレハ自首スルト否トニ論ナク固ヨリ謀殺條ノ重キニ依リ論スル儀ト可相心得事ト有之因テ謀殺條ヲ閱スルニ其末項ニ曰若シ因テ財ヲ得ル者ハ強盜ニ同シク首從ヲ分タス罪ヲ論スト有之然ラハ今此ニ二人ノ賊アリ初ヨリ人ヲ殺シ財ヲ得ント謀リ未タ

殺シ訖ラサルモ己ニ傷シテ財ヲ得タル者自首セサレハ即チ右末項ニ照シ首從ヲ分タス處斷セサルヲ得ス若シ該犯二人共ニ自首スレハ強盜財ヲ得タル罪ハ首免ヲ與ヘ人ヲ傷セシ罪ハ同條ニ依リ首從ヲ分チ科斷セサルヲ得ス然ラハ前條御指令ニ自首スルト否トニ論ナク謀殺條ニ依テ云々トアルト雖モ其自首スルトセサルト自ラ首從ヲ分ツト分タサルノ差違ヲ生スルニ付論ナク同條ニ依ルトハ難申哉ニ相考候然レモ己ニ強盜律モ御改正相成ル上ハ同條末項中強盜ニ同シク等ノ文字モ自然消滅シ人ヲ謀殺傷シ財ヲ得ハ單ニ謀殺條ニ依リ首從ヲ分チ罪ヲ科シ候儀ニ可有之哉

〔指令〕十年八月九日伺ノ趣持兇器強盜ニシテ財ヲ得ル以上ハ

十年八月

素ヨリ首從ヲ分タス罪ヲ科スルニ依リ謀殺條末項ハ抵觸スルヲナシ其初ヨリ命ヲ圖ルノ意ニ出テ財ヲ得ル者ハ謀殺強盜一ノ重キニ依リ處分スル儀ト可心得事

(第四百七十七)賊盜律外ノ盜罪ヲ一家共犯シ又ハ華士族

ノ犯スルノ處分方伺)十年八月十日 島根縣

田宅ヲ重典賣スルモノ竊盜ニ準シテ論シ受寄ノ財産ヲ費用シ死失ト詐言スルモノ竊盜ニ二等ヲ減シ遺失物ヲ得テ隱匿シテ官主ニ送還セサル者竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減スル等ハ賊盜律中ノ盜罪ト其情狀少シ異ナルアルカ如シ若シ一家人共ニ之ヲ犯サハ止々尊長ヲ坐シ華士族ノ犯スモ破廉耻甚ヲ以論セサル哉此段相伺候也

(指令)十年八月日賊盜律中ノ盜罪ニ非スト雖モ伺面ノ如キ

盜罪ハ凡人首從ノ法ニ依リ被廉耻甚ヲ以テ論セサル儀ト心得ベシ

(第四百七十八)懲役人溺者ヲ救援セシニ付特典減等伺)十年

八月十日 秋田縣

羽後國秋田郡山内村

一懲役七年 大石東吉

同國雄勝郡西馬音内村

一同三年 飯塚文治

右ノ者本年七月七日午後二時過縣下旭川通リ小船ニテ乘下ケ候際同日ハ洪水ニテ急流ノ折柄秋田郡田中町平民三浦徳治弟清七ナルモノ年九齡六ヶ月川岸ヨリ轉落既ニ

溺死セントスルヲ見若ク東吉外一人直ニ水中へ投入ス
ルモ急流ナルニヨリ共ニ相流サレ終ニ救援致候間特別
ノ御詮議ヲ以テ各本罪一等杖減候様致度此段相伺候也
〔指令〕十年八月九日伺之趣大石東吉外一名特典ヲ以テ各本罪
ニ一等ヲ減ス

但各犯へ申渡セシ上ハ其旨該裁判所へ届置ク可シ

〔第四百七十九〕賭博犯處分之儀伺 十年八月十八日

福島縣

爰ニ盜犯甲某アリ捕縛推糺スルニ賍金若干乙丙ト賭博
ヲナシ打負タル旨供狀スルニ依リ喚徵尋問スルニ果シ
テ甲ノ口供ニ相違ナキキ現在スル金圓追徵スルハ勿論
ニ候得共賭博罪タル假令既往ニ係ルト雖ヒ証憑物品ヲ

所持スル乎又ハ眞實ノ白狀ナレハ甲乙丙トモ求刑可然
乎昨九年指令錄第十二號愛知縣へ御指令既往ニ係ルモ
ノハ自首スルモ求刑ニ及バストアリ之レヲ以テ是レヲ
觀ルキハ無論不問ノ様被考候得共本年指令錄第二十號
和歌山縣ヨリ衆人指名哄傳云々若シクハ証憑タルヘキ
物品ヲ携帶シ犯人ト思料スル時ハ犯罪ヨリ經過スル時
日ノ多寡ヲ論セス云々捕獲問罪可然乎ノ伺ニ伺之通ト
御指令有之是レヲ以テ考レハ既往ニ係ルモ証憑物品ヲ
所持シ或ハ本犯眞實ノ白狀ナレハ問罪無論ニ相見ヘ依
テハ愛知縣へ之御指令ハ前日ニ係ルヲ以テ自然消滅之
儀ニ可有之哉此段相伺候以上

〔指令〕十年八月九日伺之趣賭博ハ現犯ヲ坐スルニ止マルヲ以

十年八月

テ縦ヒ眞實ノ白狀タルモ既往ニ係ルハ其罪ヲ問ハス
尤モ証憑物品ヲ携帶スルカ如キ司法警察假規則第四
章第十二條ニ照シ現行ニ准スヘキモノハ捕獲問罪候
儀ト心得ヘシ

〔第四百八十〕賊徒亂入ノ節解放シタル懲役人復歸就役ノ

者特典減等伺 十年八月 熊本縣

本年二月鹿兒島縣賊徒當縣下亂入ノ際懲役人移轉並ニ
解放ノ儀ハ既ニ去ル五月廿九日附ヲ以御届ニ及置候處
其後同囚ノ内追々復歸候者有之然ルニ右當時ノ事タル
ヤ賊勢頗ル猖獗爲メニ屢々囚場ヲ各所ニ移シ其路次或
ハ露宿先等其間隙ヲ窺ヒ十分逃走モ可相成ノ處彼等能
ク謹慎シ毫モ其萌シ無之且爾後平定ノ今日ニ至ルモ良

心不變速ニ復歸役ニ就キ候次第確然前非悔悟ノ跡判然
シ實ニ神妙ノ至リニテ屹度役囚一般ノ龜鑑トモ可相成
者ニ付右役囚和田信平外四拾八人ノ者共差向キ口供〔略〕
ノ通ニ付原罪ニ一等ヲ被減候様致度此段上申候也
〔指令〕三十年八月 和田信平外四拾八名特典ヲ以テ各本罪ニ
一等ヲ減ス

但宣告ノ上ハ其裁判所へ可通知事

十年八月

民法海峽

印行所 東京 博聞社

司法省指令録刑事部第四十號

〔第四百八十一〕保釋條例保証金ノ儀並ニ保証人タル者ノ
儀又ハ上告ニ係ル者保釋之儀ニ付伺
十年五月三日

水戸裁判所

第一條 保釋條例第五條ニ保証金高ハ云々保証人連帶
シテ之ヲ出サシムトアリ右ハ保証金一時現金ヲ以テス
ル能ハサル者ハ便宜不動産又ハ公債証書等ヲ以テ抵當
トスルモ不苦候哉
第二條 條例第十一條第二項ニ懲役五年以上ノ刑ニ處
セラレシ者トアリ右ハ禁獄五年以上ニ處セラレタル者
モ同様ノ儀ニ候哉
第三條 條例第十五條ニ裁判不服ヲ以テ大審院ニ上告

一
十年九月

シ上告中拘置セララル、者モ此例ヲ通シ用フヘシトアリ
 凡ソ保釋ハ被告人罪情ノ輕重及ヒ被告人証人ノ貧富ヲ
 識別シ專ラ裁判官見込ヲ以テ許否スル儀ニ有之然ルニ
 右上告者ハ既ニ地方裁判所ノ裁判ヲ經シ者ニ係レハ該
 裁判所ニ於テハ敢テ關涉スヘキ者ニ無之又大審院ニ於
 テ審判スル所ノ罪情輕重未タ知ルヘカラス故ニ上告中
 ノ保釋ハ大審院見込ヲ以テ許否スル儀ト相心得可然ヤ
 果シテ然ラハ右手續ハ地方官直ニ被告人証人ヨリ捧ケ
 シ願書ヲ以テ大審院ヘ送致スル歟將タ被告人証人ヨリ
 直ニ大審院ヘ申請スル儀ニ候哉抑又上告拘置中ニ係ル
 者ト雖モ地方裁判所ニ於テ直ニ許否シ大審院ヘハ其趣
 通知可致儀ト相心得可然哉

(指令)十年九月三日

第一條 保証金ハ通用貨幣ニ限ル儀ト心

得ベシ

第二條 懲役五年以上ノ實決ノ罪ニ限ル

第三條 伺ノ趣原裁判所ニ於テ許否スル儀ト心得可

シ

(第四百八十二)標題ヲ異ニシタル陰陽對比曆ヲ發賣スル

モノ、儀ニ付伺)十年八月十日

島根縣

茲ニ明治十丁丑歲諸作詩附時早覺口誌ト題シタル小冊
 子ヲ賣ル者アリ開テ之ヲ閱スルニ純乎タル陰陽對比曆
 ニシテ徒ニ標題ヲ異ニスルノミ如此モノハ曆ヲ賣ルモ
 ノヲ以テ論シ印紙貼付ナキハ違則トナシ處分可致哉又
 ハ標目ニ據リ曆トナサスシテ可然哉

十年九月

(指令) 十年九月三日情ヲ知テ偽板ノ曆ヲ發賣スル者ハ出板條例
罰則第三條ニ依リ處分スル儀ト心得可シ
(第四百八十三) 雇人ヲ以テ煙草出賣ノ儀ニ付伺(十年八月十八日)

和歌山縣

煙草稅則中第一則追加第十條ニ出賣鑑札ハ營業商人一
名一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡ト有之候付テハ願出ニ
任セ數枚相渡候テモ不苦儀ニ候得共出賣人ノ際限無之
テハ第三則追加第十三條貸借ノ罰ニ罹ルモノ可相生モ
難計依テ營業人ノ一戶籍ニアルモノ及ヒ雇人ニ限リ付
與致來候處尙實際不取締ノ廉有之候ニ付別紙寫ノ通大
藏省へ伺出候處七月二十六日朱書ノ通指令(略)相成候然
レハ本年二月御省甲第一號御布達ニ基キ一ヶ月以上ノ期

限ヲ定メタルモノ、外期限ヲ定メサル日雇人等ヲシテ
出賣セシムル者有之キハ都テ貸借ヲ以テ論シ處分可致
哉將亦雇人ト唱フルモノ、中平日ハ自宅ニアツテ恆産
ヲ營ミ時トシテハ營業商人ノ招ニ應シ出賣シテ相當ノ
賃錢ヲ受クルモノアリ或ハ營業家ノ製造煙草ヲシテ譬
へハ壹斤ニ付幾錢ト代價ヲ定メ出賣鑑札ト併セテ借受
ケ是ヲ各地ニ出賣シ其賣立代金高ノ内營業家へ元價ヲ
償ヒ剩餘ナルモノヲ出賣ノ口錢トシテ所得ニスル者ノ
類種々有之是等ハ事發覺スルニ方リテハ雙方共雇主雇
人ノ旨ヲ主張スト雖ヒ決シテ公認スヘキ雇人ニ無之儀
ト存候然ラハ一般雇人ト公認スヘキモノハ雇主雇人ノ
間ニ於テ其支給スル金穀雙方相許諾シ一月以上期限ヲ

十年九月

定メ雇使スルノ証左アル者ニ限リ其雇人ノ名義ヲ以テ
出賣セシムルノ權利ヲ得ルモノトシ其它前述ノ通り一
時種々雇人ノ名義ヲ主唱スルモ其實私便暗利ヲ計リ候
者ニテ純乎タル雇人ニアラサルモノト見認ルキハ尙審
糾ノ上事實相違無之候ハ、渾テ右稅則中第三則第十三
條ニ準シ處分ニ及候テ可然哉

(指令)十年九月三日 伺ノ通

(第四百八十四)外役中雷火ニ罹ル人家消防盡力シタル懲

役人特典減等伺二十年八月 茨城縣

明治六年十月七日宣告 常陸國河内郡羽根騎村

一懲役終身 平民 高嶋熊吉

人命律鬪毆及故殺條

明治八年四月廿七日宣告

同國新治郡石岡町

一懲役十年

平民

青木仙太郎

賊盜律竊盜條

明治十年七月二日宣告

東京無籍姓不知

平民

吉五郎

賊盜律竊盜條

明治十年七月九日宣告

常陸國筑波郡仁左衛門新田

七左衛門長男

平民

用田勝次

戸婚律逃亡條

明治十年七月三日宣告

下總國葛飾郡木間ヶ瀬村

作右衛門養子

平民

山下勝藏

一懲役八十日

戸婚律逃亡條

十年九月

明治十年六月九日宣告

同國猿島郡荳打村

一懲役七十日

平民 小川彦四郎

雜犯律賭博條

明治十年六月廿五日宣告

常陸國行方郡潮來村

一懲役六十日

平民 高塚治助

賊盜律竊盜條

明治十年六月九日宣告

下總國猿島郡荳打村

一懲役七十日

平民 小川貞次郎

雜犯律賭博條

明治十年七月三日宣告

同國豐田郡大園木村

一懲役五十日

平民 櫻井福治

賊盜律竊盜條

明治十年七月廿日宣告

常陸國眞壁郡大國玉村

一懲役五十日

平民 高庭郡治

賊盜律盜田野穀麥條

右ノ者共客月三十一日管下常陸國新治郡常名村外役先ニ於テ同日午後第三時頃同村士族田中可員外二名ノ居宅雷火ニ罹リ候際能ク消防盡力致シ爲メニ近隣へ延燒セズ殊勝ノ旨ヲ以減等方別紙ノ通掛擔任ノ者ヨリ申立候ニ付取調候處事實相違モ無之相聞へ將來他囚ノ獎勵ニモ關シ候間特別ノ御詮議ヲ以本罪輕減相成候様仕度書類相副之略此段相伺候也

(指令) 十年九月三日 伺ノ趣高嶋熊吉外九人特典ヲ以テ各本罪

ニ一等ヲ減ス

十年九月

但各犯へ申渡ノ上ハ該裁判所へ届置ク可シ

(第四百八十五)本年一月以降收祿等ノ處斷ヲ受ケシ者改

正復給ノ儀ニ付伺(二十年八月二十三日) 福島裁判所

明治九年太政官第百八號ヲ以テ家祿賞典祿ノ儀ニ付云云御布告之レ有リ就テハ其律例中ニ開載セル收祿並ニ功俸賞祿追奪ノ儀モ亦從テ御改正相成ル可キハ蓋シ無論ノ儀ト存居候得共爾來未タ其御布告アルヲ見サルニ付當裁判所ニ於テハ猶ホ從前ノ通り律例ニ依リ收祿等ノ處斷致シ來候處本年太政官第五十八號ヲ以テ明治十年一月以降律例中收祿並ニ功俸賞祿追奪ノ儀ハ總テ廢セラレタル旨御布告相成リ是ニ於テ手前キニ處斷シ畢リシ者ハ即チ所謂ル失入人罪ノ狀ヲ現シ頗ル不都合ニ

涉ルカ如シ然ラハ則チ速ニ之ヲ改正貼斷ス可キハ固ヨリ喋々ヲ俟タス然リト雖ヒ又之ヲ熟考スレハ則チ其處斷タルヤ該御布告ノ以前ニ於テシ且ツ明確ノ律例ニ準據シタル者ニ候得ハ今復タ宜ク改正貼斷ヲ用フ可カラサルニ似タリ右ハ如何相心得然ル可キ哉

(指令)十年九月三日 本年一月以來處斷スル者ハ御布告ニ依リ總テ改正シテ俸祿ヲ復給スル儀ト心得可シ

(第四百八十六)糾問判事職務仮規則中属官ノ儀ニ付伺(十年八月二十三日) 横濱裁判所

第一條 規則第五條第六條及ヒ第十五條ニ載スル所ノ属官トハ左ノ差別中ニテ何ヲ指稱シタル本旨ニ候乎
甲 一等属ヨリ十等属迄ノ属

- 乙 糾問掛ニ屬スル等外吏
- 丙 等内等外官ニ拘ラス別ニ本員ヲ設クル者
- 丁 糾問庭ニ詰メル所ノ見坐
- 戊 同僚中ニテ共事ニ該ル理員ノ下席ニ班スル糾問掛

第二條 規則第五條第六條及ヒ第十五條ノ場合ニ於テ其屬官ヲ缺クトキハ不如法ノ吟味ト成ル可キ者ニ候ヤ將々時宜ニ依リ屬官ヲ引キ若クハ同伴セサルモ吟味ノ煩ヒトハ成ラサル事ニ候手

右條趣カニ御垂示被遣度候也

(指令) 十月五日 第一條 屬官トハ一等屬ヨリ十等屬迄ノ屬ニシテ刑事課ニ從事スル書記ノ類ト心得ヘシ

第二條 規則ノ通り舉行スヘシ

(第四百八十七)賣藥免許ノ看板ヲ掲ケサル者行商ノ際鑑札ヲ携帯セサル者鑑札ヲ毀失シテ届出サル者處分方伺) 十月十八日 神奈川縣

本年第七號公布賣藥規則第六條ニ乖戾シ免許ノ看板ヲ掲ケサル者第七條行商鑑札ヲ願受ケ所持スルモ行商ノ際鑑札ヲ携帯セサル者第拾貳條其仔細ヲ届出云々ノ手數ヲ盡サス依然營業ヲ爲ス者處分方該規則第三章罰則中正條無之ニ付第一項第二項ハ違令ヲ以テ第三項ハ無鑑札ヲ以罰則ニ照シ處分可致哉他ノ條目違犯者處分方ハ罰則ニ照依シ特リ第一項第二項ニ限リ違令ヲ以テ論スルハ權衡當ヲ得サル様相考候ニ付此段相伺候也

十年九月

(指令) 月六日

伺ノ趣三項共後來ヲ戒諭スルニ止リ處罰

ニ及ハス

(第四百八十八) 犯跡ヲ隱匿セント欲シ事主ニ首服スル者

ノ儀ニ付伺 二十年八月二十七日

大 審 院

名例律犯罪自首條若シ強盜及ヒ詐欺シテ財物ヲ取リ
事主ノ處ニ於テ首服シ或ハ枉法不枉法ノ贓ヲ受ケ過ヲ
悔ヒテ本主ニ還付スル者ハ官司ニ自首スルト同シク皆
其罪ヲ免ストアリ其犯跡ヲ隱匿セント欲シテ事主ノ處
ニ於テ犯事ヲ吐露セシアルカ如キモ事主ニ對シテ首
服シタル者ニハ有之然レトモ唯犯事ヲ隱匿セント欲シ
テ吐露スルト眞實ニ過ヲ悔ヒ首服スルトノ別アル而已
然リ而シテ其犯跡ヲ隱匿セント欲シテ事主ノ處ニ於テ

犯事ヲ吐露セシ者ノ如キハ過ヲ悔ユルノ情ナキヲ以テ

自首ノ限リニアラスト考量イタシ候得共爲念相伺候也

(指令) 月七年九 律ノ首服ハ強竊詐欺等犯ス所ノ情實ヲ首

シ己ノ過ヲ謝シ罪ニ服セント請フノ意ニ出ル者ニテ

其犯跡ヲ隱匿セント欲シ巧ニ彌縫シ眞心悔悟ノ情實

ナキ者ノ謂ヒニ非サル儀ト心得可シ

(第四百八十九) 糾問判事職務上外國人召喚之義ニ付伺 十

八月二 十七日

神 戶 裁 判 所

内外交渉之事件ニ付糾問判事職務上外國人ヲ召喚セサ
ルヲ得サル場合ニ於テハ當該官ノ名ヲ以テ直チニ各領
事へ照會シ可然哉又ハ該所長ヲ經由セサルヲ得サル儀
哉此權限上他日之關係不少至急御指令奉仰候也

十年九月

十六

(指令)十年九月十日
心得可シ

伺之趣當分ノ内裁判所長ヲ經由スル儀ト

印行所 東京 博聞社



